はじめに

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、でも、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。

そんな人でも大丈夫！

本講座は漢文の基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人でも大歓迎！です。

この講座を受講すれば、最後には入試漢文の問題が自力で解けるようになっているはず。たった十回なのに、です。

なぜなら**漢文は、入試科目の中でおそらく一番少ない知識で高得点が取れる科目**だからです。ただし、古文法の知識がないと少しやっかい（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したからです）なので、まずは古文法を仕上げてくださいネ（入試科目で、「古文はいるけど漢文は不要」という人はいるでしょうが、その逆はほとんどの人が該当しないはずです。だから「古文そのもの」の為にはもちろんのこと、「漢文」の為にも古文法の知識は必要ですので、まずは古文文法講座の講義動画を参考にして古文法をマスターしてください）。

漢文は確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。

あるいは、「漢文は使役や反語などの句法が大事」だという言葉は、なんとなく聞いたことがある人も少なくないはずです。だから「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？

でも「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」という悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実…。

——なぜでしょう？

実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。もちろん句法も大事です。でも、それだけじゃないんです！

一番基本となるところ、「**文構造**」や「『**置き字**』**の知っておくべき知識**」をきちんと理解できていないと、漢文は正しく読めません。逆に言うと、これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。

本講座では、第一講で、まずそれらの基本知識をきっちり学んだ上で、第二講〜第六講で入試に必要な「重要句法」に取り組みます。ほぼ全ての例文は、最近の入試問題の文章から抜粋したものです。基本を学びつつ、例文で入試問題の文章にも触れて、実践問題を取り組む準備も自然としていることになります！

第六講の最後には、覚えておくべき単語も掲載していますので、何度も見て覚えてくださいネ。少ないとは言え、やはり最低限覚えるべきことはあるので、テキストに載っていることはおさえてください（もちろんコツは講義中にお伝えします）。第七講で漢詩を扱った後は、実際の過去問にチャレンジです。

基本からしっかり理解して、実践練習で問題が解けるように、全十回一緒に頑張りましょう！

予復習・授業の受け方について

第一～七講までは予習不要です。
テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。
その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。
なお解答欄はありませんので、選択式の問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。
ちなみに、**〈例題〉は基本オリジナル問題**（若干古い入試問題も入っています）、**「問題」は実際の最近の入試問題**です。
「既に句法が理解できている人」は、第二～六講の句法の部分は、ざっと確認程度で気楽に取り組んでください。**間違えた箇所、忘れていた部分、知らなかったことなどに重点を置いて**取り組んでください。
「全く句法が理解できていない人」は、一気に仕上げようとしなくてもよいので、**確実に覚えてから次に進んでください**。ただし、間が空きすぎると忘れてしまうので、なるべく期間を決めて（句法を一～二カ月以内に全部覚える、など）、その間に仕上げてくださいネ。

第八～十講は「実践練習」なので、**動画を見る前に先に問題を解いてください**（つまり、予習してネ）。大問で二、三題ありますので、全部解いてから動画をまとめて見るもよし、各大問ずつ解いて該当チャプターを分けて見るもよし、自分に合うスタイルで実施してください。どちらにしろ、予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ることは守ってください。自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることが大切です。

講義を見終えたら、どの講も復習は必ずしてください。特に、第一講が理解できていなければ、その先も全く分からないはずなので、きちんと理解してから次に進みましょう。句法は言うまでもなく大切ですので、動画を見て理解ができれば何度もテキストを見直して、定着させてください。復習が終わったら、後ろにある**「復習問題」**（全て入試問題で作成）を解きましょう。
この「復習問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してください！

目次

第一講　基本事項の確認……p.5
第二講　再読文字／使役形……p.24
第三講　受身形／否定形……p.37
第四講　疑問形／反語形……p.52
第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形……p.62
第六講　抑揚形／願望形／その他……p.75
第七講　漢詩／漢文読解法……p.93
第八講　実践練習⑴……p.108
第九講　実践練習⑵……p.117
第十講　実践練習⑶……p.128

第一講　基本事項の確認

一　基礎知識

●**白文**…漢字だけの文

有献不死之薬於荊王者。

●**送り仮名**…漢字の右下にカタカナでつける（漢字の横の平仮名は振り仮名）。

＊日本の古典文法に従い**歴史的仮名遣い**で書く。

有リ献ズル不死之薬ヲ於荊（けい）王ニ者。

●**返り点**…漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。

有下献二不死之薬於荊王一者上。

●**書き下し文**…漢字・仮名まじりの日本文に書き改めたもの。

不死の薬を荊王に献ずる者有り。

注　荊…楚（国名）の異名。

i 「書き下し文」

＊ 平仮名は、日本の古典文法に従い歴史的仮名遣いで書く。

① 返り点（ii参照）に従って順番に読む。

② **置き字**（三参照）は**書かない**。

③ 漢字は漢字のままだが、**助詞・助動詞として読む漢字は平仮名**にする。

④ 漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。

⑤ **再読文字**（第二講で実施）は**最初の読みは漢字**で、**二度目の読みは平仮名**で書く。

（例）

有リ㆘献ズル㆓不死**之**薬ヲ於荊(けい)王ニ㆒者㆖。

↓

不死**の**薬を荊王に献ずる者有り。

ii 「返り点」

（＊ iiの例文中もiの例文同様、**助詞・助動詞**の漢字は**太字**、置き字には影を付けています）

① レ点＝すぐ下の一字からすぐ上の一字に返る。

②レ①

（例） 酤(ウル)レ酒(ヲ)。〔酒を酤る。〕

② 一・二点＝二字以上返る。

③二①②一　／　④レ③二①②一　／　⑤三①④二②③一

（例） 我与(ためニ)レ汝(なんぢノ)結(バン)二今身(ノ)縁(ヲ)一。〔我汝の与に今身の縁を結ばん。〕

③ 上・中・下点＝一・二点をはさんで上に返る。

⑤下③二①②一④上　／　⑥レ⑤下③二①②一④上　／　⑦下①⑥中④二②③一⑤上

（例） 僕時(ニ)**雖**(モ)下稍(やや)知(リ)二愛敬(スルヲ)一、**不**(ルト)中従(ヒテ)レ衆(ニ)非笑(セ)上、…

〔僕時に稍愛敬するを知り、衆に従ひて非笑せ**ざ**ると雖も、…〕

④　甲・乙点＝上・中・下点をはさんで上に返る。（甲乙丙丁…）

⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑧レ⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑨丙①⑧乙⑥下④二②③一⑤上⑦甲

＊　上中下点を使うべき場合も、四ヶ所以上返り点をつけなければならないときは「甲乙丙丁」を使用する。

（例）⑨丁①⑧丙②⑦乙⑤二③④一⑥甲

⑤　組み合わせ点＝一レ、上レ、甲レのみ。　＊　一・上・甲のすぐ上にレ点をつけることはできない。

①⑤二②④一レ③　／　⑥下③二①②一⑤上レ④　／　⑧乙⑤下③二①②一④上⑦甲レ⑥

（例）明ニスル二人**之**欺クヲレ王ヲ**也**。〔人**の**王を欺くを明にする**なり**。〕

⑥　二字の熟語へ返る＝－（ハイフン）でつなげる。

③二-④①②一　／　⑤三③二-④①②一

（例）往二-来ス於市井せいノ間ニ一。〔市井の間に往来す。〕

〔例題一〕 次の○の中に、返り点にしたがって、読む順番を数字で書きなさい。

◯乙◯下◯二◯◯レ◯◯中◯◯上◯甲。

〔例題二〕 次の数字の順番に読めるように返り点を付けなさい。

⑦　⑥　①　②　⑤　③　④

問一 次の文は「臣敢て死を以て戯れと為さず」と読む。これに従って返り点を付けよ。

臣　不　敢　以　死　為　戯　。

問二 次の文は「遂に以て詩を得たる人に嫁せしむ」と読む。この読み方に従って、返り点をつけなさい。

遂　以　嫁　得　詩　人　。

問三 次の文は「勤めに服し力を致し、以て厚徳に報いんと欲す」と読む。これに従って、漢文に返り点を付けなさい。

欲　服　勤　致　力　、　以　報　厚　徳　。

問四　次の文を「寛簡、擾（みだ）さざるを以て意と為す」と読めるように返り点と送り仮名とを施しなさい。

以　寛　簡　不　擾　為　意　。

注　寛簡…寛大で簡便なこと。

〔例題三〕　「移㆓榻於戸外㆒而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

①　戸外より榻を移して寝ねたり。
②　榻を戸外に移して寝ねたり。
③　戸外に寝ねて榻を移したり。
④　榻を移して戸外に於いて寝ねたり。
⑤　榻は戸外にて移して寝ねたり。

二 **基本構造**（＝「**語順**」）

① S（主語）＋V（述語）
（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

② S＋V＋O〔目的語＝〜**ヲ**〕

③ S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝〜**ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

④ S＋V＋O＋於・于・乎＋C
（＊名[1]　動[4]二　名[2]ヲ　於・于・乎　名[3]ニ一）

⑤ S＋V＋C＋O
（＊名[1]　動[4]二　名[2]ニ　名[3]ヲ一）

⑥ 修飾＋被修飾

＊　①・⑥は日本語と語順が同じだが、②〜⑤は異なる。そこで漢文を日本語の順番で読むために「返り点」を付ける。

★　①〜⑤において、Sが省略される時もある。↓**Vにあたる部分を探す**。

①　S（主語）＋V（述語）　（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

（例）伍(ご)員(うん)亡(にグ)。（伍員は亡命した。）

汝ノ狗(いぬ)猛(たけシ)。（お前の犬は気性が激しい。）

彼良医也(なり)。（彼は腕の良い医者である。）

②　S＋V＋O〔目的語＝～**ヲ**〕

（例）病児服薬。（　　　　　　　　　）

＊「～ヲ」の送り仮名を振って文意が通じなければ、OではなくC。

③　S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝～**ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

（例）我請於帝。（　　　　　　　　　）

＊V＝「言う」の意味になる時は、「S＋V＋C」となることが多い。

（例）公語(リテ)レ人曰(ク)…　（公が人に語って言うことには…）

＊文意上「～ヲ」になる時は、CではなくO。強意の働き。

（例）伍(ご)員(うん)過(よぎル)二於荊(ヲ)一。（伍員は荊の国を通り過ぎる。）　注　荊…楚（国名）の異名。

④　S＋V＋O＋於・于・乎＋C

（＊　名¹　動⁴二名²ヲ　於・于・乎　名³二一）

（例）　献不死之薬於荊王。（　　　　　　　　　　）

⑤　S＋V＋C＋O

（＊　名¹　動⁴二名²二　名³ヲ一）

（例）　子路与人一簞食。（　　　　　　　　　　）

（一：いっ　簞食：たんノし）

注　一簞食…竹で作った器に盛った飯。

ここで再び〈例題三〉（左記）を見てみよう（選択肢①・③・④はカット）。

〈例題三〉「移二榻於戸外一而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

②　榻を戸外に移して寝ねたり。

⑤　榻は戸外にて移して寝ねたり。

S ＋ { 副詞 ／ 助動詞 ／ 再読文字 ／ 前置詞を含む句 } ＋ V ＋ O ＋ **於・于・乎** ＋ C ＋ 語気詞

※前置詞を含む句

以(テ)二～(ヲ)一 ／ 与(と)二～一 ／ 為(ニ)二～一 ／ 自(より)二～一 など

※語気詞＝文末で強意・疑問・反語・詠嘆・断定などの気分を表す言葉

（例） 臣 以二忠 信一得二罪 於 上一者 也(なり)。　（私は忠信でありながら「　　　」ものである。）

↓ 書き下し文

「　　　　　　」

注　上…上位の人。

三 **置き字**…意味はあるがそれ自体は読まない文字。書き下し文では書かない。

① **於・于・乎**＝前置詞の働き。

「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表し、動詞・形容詞の後に置く。**直後の送り仮名は**

「ヲ・ニ・ト・ヨリ（モ）」。

② **而**＝接続の働き。「順接・逆接」を表す。

文中…**読まない**。**直前に読む字に送り仮名**を送る。

「順接」＝テ・シテ・ニシテ・デ　（例）召（シテ）二蘧（きょ）伯（はく）玉（ぎょく）（ヲ）一而貴（ブ）レ之（ヲ）。

「逆接」＝モ・ドモ・ニ　（例）蘧伯玉賢（ナルモ）而不レ用（ヒラレ）。

> **文頭**…**読む**（＝置き字ではない）。
>
> 「順接」＝しかうシテ・しかシテ
>
> 「逆接」＝しかルニ・しかルヲ・しかモ・しかレドモ

③ **矣・焉**＝**強意**の働き。**文末**にある。語気詞。

（例）我失（ヘリ）矣。

④ 兮＝整調の働き。（詩の中でしか使わない）

（例）今遂（ニ）逝（ケリ）兮。

問五　「語夫人其実焉」の返り点の付け方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

① 語㆓夫人其実㆒焉　　夫人と其の実を語る
② 語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語ること其れ実ならんや
③ 語㆓夫人其実㆒焉　　夫人に其の実を語る
④ 語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語りて其れ実ならしむ
⑤ 語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語れば其れ実なり

問六　次の文章に、返り点を付けよ。

吾已作薬酒待之矣。

注　薬酒…毒薬を入れた酒。
之(これ)…ここでは「夫」のこと。

四　**返読文字**…語順に関係なく**下から返ってくる**ことが決まっている文字。（左記のＡ・Ｂなど）

Ａ「助動詞」

…助動詞は文末に置く断定「也」を除いて、用言（主に動詞）の上に置かれ、その用言から返って読む。

① **不**・弗＝ず（打消）　② **使**・令・遣・教・俾＝しム（使役）

③ 為＝たリ（断定）　④ **可**＝べシ（可能・当然）

⑤ **見**・被・為・所＝る・らル（受身）　⑥ **如**・若＝ごとシ（比況）

＊「ム・タリ（完了）・リ」などは漢字がなく、送り仮名として示す。

Ｂ「それ以外」

① 有（あリ）　② 無（なシ）　③ 勿・毋・莫（なカレ）

④ 多（おほシ）　⑤ 少（すくなシ）　⑥ 易（やすシ）

⑦ 難（かたシ）　⑧ 毎（ごとニ）　⑨ 所（ところ）

⑩ 為（ノためニ）　⑪ 所以（ゆゑん）　⑫ 不レ能（あたハず）

⑬ 雖（トいへどモ）　⑭ 自・由・従（よリ）

⑮ 与（と）　⑯ 与（よリ（ハ））

問七　次の文は「甸人をして麦を献ぜしむ」と読む。これに従って、返り点と送り仮名を書きなさい。

使　甸　人　献　麦　。

注　甸人…公田の耕作を司る役人。

問八　次の文に訓点（送り仮名と返り点）を施し、記せ。

雪　珠　如　豆　打　茅　茨　。

注　雪珠（せつじゅ）…あられ、みぞれ。
茅茨（ぼうし）…かやぶきの屋根。

五　「也」の読み方

文末＝上に**疑問・反語**を表す副詞があるかないかを確認。

①　**疑問・反語**～也。＝「**や**」「**か**」と読んで「**疑問・反語**」の意味を表す。

②　~~疑問・反語~~～也。＝「**なり**」と読んで「**断定**」の意味を表す。

文中＝「**や**」と読んで「提示・強調」の意味を表す。

③　～也、～　（読まないときもある）

④　～也～　（ほとんど読まない）

〔例題四〕 次の傍線部ａ・ｂの読みを、それぞれ記せ。

蓋（けだシ）是（こノ）国<u>也</u>（ａ）、地険（ニシテ）而民多（ク）レ知、其（ノ）主（ハ）俗主<u>也</u>（ｂ）。

ａ＝　　　　ｂ＝

問九 「始 貨二爾 魚一約二三 十 銭一也。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　始め爾（なんぢ）に魚を貨（う）るも三十銭に約せんや。

イ　始め爾の魚を貨るに三十銭を約せんや。

ウ　始め爾に魚を貨るに三十銭を約するなり。

エ　始め爾に魚を貨らしむるに三十銭を約するか。

オ　始め爾の魚を貨らしむるも三十銭に約するなり。

復習問題　第一講　基本事項の確認

① 「臣聞邪不干正」を、「臣　邪は正を干(をか)さずと聞く」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　臣聞㆓邪不㆒干㆑正
イ　臣聞㆑邪㆑不㆑干㆑正
ウ　臣聞㆔邪不㆓干正㆒
エ　臣聞㆓邪不㆒㆑干㆑正
オ　臣聞㆓邪不㆑干正㆒

② 「太常使国工視之」は、「太常　国工をして之を視(み)しむ」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　太常使㆓国工㆒視㆑之
イ　太常使㆔国工㆓視㆒㆑之
ウ　太常使㆔国工㆓視之㆒
エ　太常使㆓国工視㆒㆑之
オ　太常使㆓国工視㆑之㆒

③　「移二榻於戸外一而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

ア　戸外より榻を移して寝ねたり。
イ　榻を戸外に移して寝ねたり。
ウ　戸外に寝ねて榻を移したり。
エ　榻を移して戸外に於いて寝ねたり。
オ　榻は戸外にて移して寝ねたり。

④　「語夫人其実焉」の返り点の付け方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　語二夫人其実一焉　　夫人と其の実を語る
イ　語二夫人一其実焉　　夫人に語ること其れ実ならんや
ウ　語二夫人其実一焉　　夫人に其の実を語る
エ　語二夫人一其実焉　　夫人に語りて其れ実ならしむ
オ　語二夫人一其実焉　　夫人に語れば其れ実なり

⑤　「且今之黍稷也、非レ有下異二於向之黍稷一者上也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　且（か）つ今の黍稷や、向（さき）の黍稷に異なる者有るに非ざるなり。

イ　且つ今の黍稷や、向には之（これ）の黍稷に異とする者有るに非ずや。

ウ　且つ今の之（これ）黍稷なり、向の黍稷に異なる者有るに非ずや。

エ　且つ今は之が黍稷なり、向の之の黍稷に異なる者有るに非ざるなり。

オ　且つ今は之黍稷ならんや、向は之黍稷なるに異なる者有るに非ずや。

第二講　再読文字　／　使役形

一

再読文字…最初は返り点を無視して副詞として読み、二度目は返り点に従って助動詞（動詞）として読む。

① **未**＝未（いま）ダ～ず／（まだ～ない）

（例）未レ還（かへラ）。〔未だ還らず。〕（まだ戻ってこない。）

② **将・（且）**＝将（まさ）・（且（まさ））ニ～ントす／（～しようとする・～しそうだ）

（例）将ニレ食セント。〔将に食せんとす。〕（今にも食べようとする。）

＊「将」が再読文字ではないとき＝「はタ」（＝あるいは）や「もっテ」と読む。

③ **当**＝当（まさ）ニ～べシ／（当然～すべきだ・～しよう）

（例）当レ帰（とつガシム）レ汝。〔当に汝を帰がしむべし。〕（当然お前を嫁がせよう。）

④ **応**＝応（まさ）ニ～べシ／（きっと～しよう・に違いない）

（例）応レ知レ之。〔応に之を知るべし。〕（きっとこれを知っているに違いない。）

⑤ **宜**＝宜シク～ベシ／（～するのがよい）

（例）宜レ従二汝ノ所ニレ適ク一矣。〔宜しく汝の適く所に従ふべし。〕（おまえが行きたいところへ行けばよい。）

＊「宜」が再読文字ではないとき＝「むベナリ」と読み「もっともだ」の意味。

⑥ **須**＝須ラク～ベシ／（必ず～する必要がある・しなければならない）

（例）須レ学。（　　　　）（　　　　）

⑦ **猶・（由）**＝猶ホ・（由）ホ～〔ガ・ノ〕ごとシ／（ちょうど～のようだ・と同じだ）

V連体形＋ガ（…過ぎたるはなほ及ばざる**が**ごとし）

体言ノ（…春の夜の夢**の**ごとし）

（例）今之楽、猶二古之楽一。〔今の楽、猶ほ古の楽のごとし。〕（今の音楽は、ちょうど昔の音楽のようだ。）

＊「猶」が再読文字ではないとき＝「なホ」と読み、「やはり・まだ・いっそう」と訳したり、「抑揚形」の文で使われる。

⑧ **盍**＝盍ゾ～ざル／（どうして～しないのか・～すればよいではないか）

（例）盍二以テレ疾ヲ辞セ一。〔盍ぞ疾を以て辞せざる。〕（どうして病気を理由にして辞退しないのか。）

問一　次の文を、返り点に従って書き下し文にせよ。

妾ハ宜下シク以テレ身ヲ薦(すす)メ二其ノ棺(くわん)槨(かく)ニ一、守リ中養フ其ノ幼(よう)孤(こ)ヲ上。

注　棺槨…ここでは、棺桶に納められた夫のことを指す。
　　幼孤…幼い遺児。

問二　次の文は「禹は天下に溺(おぼ)るる者有れば、由(な)ほ己(おのれ)之(これ)を溺らすがごとしと思へり」と読む。これに従って、返り点を施せ。

禹　思　天　下　有　溺　者　、由　己　溺　之　也　。

問三　「須」の意味として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

ア　～であろう　　イ　～するだけだ　　ウ　～することが必要だ

問四　「病ミテ且死、…」の傍線部の　A　読み方と　B　解釈として最もふさわしいものを、次の中からそれぞれ選べ。

A　ア　まさにしせんとし　　イ　まさにしすべくして
　　ウ　よろしくしすべくして　　エ　すべからくしすべくして
　　オ　なんぞしせんとし

B　ア　少しの間、死んだようになって　　イ　死んだ方がましだと思って
　　ウ　今や死にそうになって　　エ　必ず殺されると思って
　　オ　それでも生きたいと望んで

問五　「当如此也ト。」の書き下し文として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　当（まさ）に此（か）くの如（ごと）くなるべきなりと。
2　当（あ）たるも如（も）しくは此（こ）れにあらんやと。
3　当（まさ）に此（こ）れに如（し）くものあらんやと。
4　如（ゆ）くに当（あ）たりて此（か）くなるべきなりと。

問六「盍 試 一 思 之。」のA訓読とB意味について、正しいものを次の中から一つ選べ。

A　訓読

ア　けだし試みに之を一に思ふ
イ　なんぞ試みに一たび之を思はざる
ウ　いはんや一たび之を思ふことを試みんや
エ　まさに一に之を思ふことを試みんとす
オ　あに一を試みて之を思はんや

B　意味

ア　ましてや一度はこのことを考えないことがあろうか
イ　いったい一つのことを試してこのことを考えようか
ウ　これからひたすらこのことを考えるのを試みてみよう
エ　どうしてこのことを一度試みに考えてみないのか
オ　おそらくもっぱらこのことを考えようと試みるであろう

問七　「当㆓為㆑子沽㆒㆑酒。」を書き下し文にせよ。

注　沽…買う。

問八　「甘(かん)茂(ぼう)亡㆑ゲ秦ヲ、<u>且之斉</u>、…」の傍線部をひらがなのみの書き下し文にせよ。

注　甘茂…秦の宰相。
斉(せい)…地名。

問九　「不当発悪願。」を漢字ひらがなまじりで書き下せ。

二 使役形

① 基本…助動詞を使ったもの

S　使・令・遣・教・俾 三　N　V 二　O 一

S＝主語
N＝使役の対象。助動詞の**直下**の名詞（人が多い）。
V＝動作
O＝動作の目的

〈読〉＝S**N**ヲシテO｛ヲ／ニ｝Vしム

＊　N（助動詞の直下の名詞）には「をして」の送り仮名を必ず送る。

＊　Vは未然形に活用させる。

〈訳〉＝SはN｛に命じて／をつかわして／に／を｝O｛を／に｝Vさせる。

(例) 王使人求之。（　　　　　　　　）（　　　　　　　　）

＊　ＳＮＶＯは全てがそろっているとは限らないので、まずＳＮＶＯのうちのどれがあるか確認すること。（Ｖの部分は絶対に省略されない。**→まずＶを探す**。）

〔例題一〕　次の「**使**」以外の各漢字の右横に、文の要素（Ｓ、Ｎ、Ｖ、Ｏ）の該当するものを書け。

(1)　王**使**臣書文。

(2)　王**使**臣書。

(3)　王**使**書文。

(4)　**使**書。

＊　Ｖが二つ以上ある場合、使役がどこまでかかるか文脈判断する必要があるので注意！

（例）王使臣書文読之。

王使二臣書レ文読レ之。

王使二臣書レ文読レ之。

② 使役を暗示する動詞を使ったもの

命ジテ
令シテ
召シテ
勧メテ
教ヘテ
遣ハシテ
説キテ

｝～Ｖ（シム）

禁ジテ
戒メテ

｝～不（レ）Ｖ（ラシム）

③ 本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「シム」が付いているときは注意。

問十　「王大イニ怒リ、使人殺中射之士。」の傍線部を書き下せ。

注　中射之士…宮中宿衛に当たる武官の侍従。

問十一　次の文を、返り点に則して、書き下し文に直せ。

妻使下妾挙二薬酒一進上之。

注　妾…下女。
薬酒…毒薬を入れた酒。

＊進…サ変動詞「進ず」

問十二　次の文を「相（しやう）をしてこれを聘（へい）せしむ」と読めるように、返り点を付けよ（送り仮名は不要）。

使相聘焉。

問十三　次の文は「子どもに金を持たせ、つぼをぶら下げて酒屋に行き酒を買ってこさせる」という意味である。これに基づいて返り点を付けよ。ただし送り仮名は付ける必要は無い。

令 孺 子 懐 銭 挈 壺 甕 而 往 酤 。

注　孺子…子ども。
挈…ひっさげる。
壺甕…酒を入れるつぼ。
酤…ここでは「買う」。文脈によって「うる」とも「かう」とも読む。

問十四　「使 公 以 馬 殺 人」をすべてひらがなで書き下しなさい（現代仮名遣いでよい）。

注　公…斉の君主、景公（けいこう）。

問十五　「使㆓汝 不㆑死㆓於 人 之 手㆒。」をひらがなのみを用いて書き下せ。

復習問題　第二講　再読文字／使役形

①「唯(た)だ春江の看(み)れども未(いま)だ厭(あ)かざる有り」と読むには、返り点はどのように付けるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　唯有二春江看レ未レ厭

イ　唯有二春江看未レ厭

ウ　唯有三春江二看未レ厭

エ　唯有三春江二看未一厭

オ　唯有三春江看二未厭一

②「将」は再読文字の一つである。次の中から再読文字でないものを一つ選べ。

ア　応　　イ　遂　　ウ　宜　　エ　須

③「当二相取一也。」は「どうしても（あなたを）つかまえなければならない。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　あひ取るにあたれるなり。

イ　まさにあひ取るべきなり。

ウ　よろしくあひ取るべきなり。

エ　まさにあひ取らんとするなり。

オ　よろしくあひ取らんとするなり。

④「将有重賞」をひらがなで書き下した文として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　もちひてしやうをおもんずるあり。
イ　もつてぢゆうしやうあらんとす。
ウ　ひきゐてぢゆうしやうあらんとす。
エ　まさにぢゆうしやうあらんとす。
オ　しやうにしやうをおもんずるあり。

⑤「俾」の送り仮名を含めた読み方として最もふさわしいものを、次の中から選べ。

ア　しめんことを　　イ　られんことを
ウ　ざらんことを　　エ　れんことを

⑥「使二相償レ之」は「相（田叔）の手で銭を弁償させようとした」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　相をしてこれを償ふ。　　イ　相をしてこれを償はしむ。
ウ　相をしてこれを償ふべし。　　エ　相をつかひてこれを償ふ。
オ　相をつかひてこれを償はしむ。　　カ　相をつかひてこれを償ふべし。

第三講　受身形／否定形

一 受身形

① 基本…助動詞を使ったもの

見　被　為　所 レV

〈読〉＝
- V（四段・未然形）＋る
- V（四段以外・未然形）＋らル

〈訳〉＝Vされる

（例）見レ用ヰ。（　　　　　）

見レ従ハ。（　　　　　）

問一　「見レ召。」の「見」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　「使」と同じで、「～させる」という意味である。

②　「被」と同じで、「～される」という意味である。

③　「示」と同じで、「しめす」という意味である。

④　「現」と同じで、「あらわれる」という意味である。

⑤　「謁見」の「見」と同じで、「まみえる」という意味である。

問二　「有(たもツ)レ人ヲ者ハ累(わづら)ヒ、見レ有二於人一ニ者ハ憂フ。」の傍線部（見レ有）の読みを送り仮名まで含めてカタカナで答えよ。現代仮名遣いでも構わない。

② 助動詞を使わないもの

(1) **為**二N**所**一レV

〈読〉＝NノVスルところトなル

〈訳〉＝NにVされる

〈例〉為唐廷ノ文士所推奨。〔　　　　　　　〕（　　　　　　　）

(2) V二ラル/ル　［于　乎　於］　N一　　N＝Vの動作主

〈読〉＝NニV（ル／ラル）

〈訳〉＝NにVされる

③ 本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「る・らル」が付いているときは注意。

問三　「本為二鳥所レ設、今為二人所レ資」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　鷹は、もともと獲物を捕る才能を備えており、今も人のために役立っている。
②　小鳥は、もともと鷹が食料としていたものであるが、今では人が食料としている。
③　雉(きじ)や兎(うさぎ)は、もともと鷹のために天が授けたものであるが、今は人の食料となっている。
④　翼や爪は、もともと鷹のために付けられているものなのに、今は人に利用されている。
⑤　鷹狩りは、もともと鷹の訓練のために始められたものであるが、今では人の娯楽となっている。

問四　「今臣不肖、棄(ニシテ)二‐逐於秦一而出(ヅ)レ関(ヲ)。」の「於」と同じ意味の「於」を含む文を次の中から選べ。

注　棄逐…追い出す。

ア　不義而富且貴、於レ我如二浮雲一。
イ　曹操比二於袁紹一、則名微而衆寡。
ウ　労レ心者治レ人、労レ力者治二於人一。
エ　停レ車坐愛楓林晩、霜葉紅二於二月花一。

二 否定形（…基本的に直後の語から返る）

Ａ 「単純否定」

① **不・弗**＝ず／（**～しない**）

【動作】の否定。→直下はＶ。（＊ＡやＮを否定することもある）

（例）不聴。〔聴かず。〕（聴かない。）

② **無・莫・毋・勿**＝なシ／（**～がない**）

【存在・所有】の否定。→直下はＮ。

Ｖの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

＊「命令（禁止）文」のとき→「**なカレ**」と読む。

（「**勿**」は禁止を表すことが多い。）

（例）無情。〔情け無し。〕（思いやりがない。）

＊勿忘。〔忘るる勿かれ。〕（忘れるな。）

③　**非・匪**＝（～ニ）あらズ／（**～ではない**）
【状態・内容】の否定。↓直下はN。
Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

（例）非人也。〔　　　　　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　〕

問五「自疑非夢。」の正しい訓読を次の中から選べ。

ア　自（みづか）ら夢を疑ひて非ずとす。
イ　自（みづか）ら夢に非ざるかと疑ふ。
ウ　自（みづか）ら夢を疑ふを非（そし）る。
エ　自（みづか）ら疑ふを非（そし）りて夢みる。

B　「不可能（＝～できない）」の形

①　**不可**V＝V〈終止形〉ベカラず（許可）

（例）不可出。〔　　　　　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　〕

② **不能**Ｖ＝Ｖ〔連体形〕（コト）あたハず（能力）

（例）不能正スレ君ヲ。（　　　　　　）（　　　　　　）

③ **不得**Ｖ＝Ｖ〔連体形〕ヲえず（機会）

（例）不得謂。（　　　　　　）（　　　　　　）

注　謂…言。

問六「不得視」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

イ　たちまち消えてしまった。
ロ　見ないわけにはいかなかった。
ハ　見ることができなかった。

問七「不ルレ能ハレ得ル也。」を現代語訳せよ。

問八「竟不能帰。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問九「不レ能三与レ君陥二於難一。」を書き下し文にせよ。

C 「二重否定」 ⇒ 強い肯定！

① **無不**〜＝〜ざル（ハ）なシ　／（〜しないものはない＝必ず〜する／皆〜する）

② **非不**〜＝〜ざル**ニ**あらズ　／（〜しないのではない＝非常に〜する）

③ **非無**〜＝〜なキ**ニ**あらズ　／（〜がないのではない＝〜がたくさんある／いる）

④ **無非**〜＝〜**ニ**あらザル（ハ）なシ　／（〜ではないものはない＝皆〜だ）

⑤ **不可不**〜＝〜ざルべカラず　／（〜しないわけにはいかない）

（例）不可不察也。（　　　　　　　）（　　　　　　　）

⑥ **不敢不**〜＝〜あヘテ〜**ずンバ**アラず
（どうしても〜しないわけにはいかない）

（例）不敢不尽。（　　　　　　　）（　　　　　　　）
注　尽…「尽(つく)す」。

⑦ **未嘗不**〜＝いまダかつテ〜**ずンバ**アラず
（今まで一度も〜しなかったことはない＝いつも必ず〜する）

問十　「未ダル二嘗テ不ンバアラレ悲シマ二石荊州之為なリヲレ人ト也。」を現代語訳せよ。
注　石荊州…人名。
悲…あわれむ。

問十一　「莫二不レ観者一。」を書き下し文にしなさい。

問十二　「人不レ可レ不二自勉一。」を全てひらがなで書き下し文にしなさい。

問十三　「非二以レ無レ人而不一レ芳。」とはどういう意味か。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

a　見てくれる人がいてはじめて、芳しい花の存在が知られるわけではない。

b　見てくれる人が現れるかどうかで、花がその香りを変えることはない。

c　見てくれる人がいないからといって、芳しい香りを漂わせないわけではない。

d　人が見てくれることを求めて、芳しい香りを発するわけではない。

D **「全部否定」と「部分否定」**（右が全部・左が部分）

① 常不～＝つねニ～ず／（いつも～ない）
不常～＝つねニ**ハ**～ず／（いつも～とは限らない）

② 必不～＝かならズ～ず／（必ず～ない）
不必～＝かならズ**シモ**～ず／（必ず～とは限らない）

③ 倶不～＝ともニ～ず／（両方とも～ない）
不倶～＝ともニ**ハ**～ず／（両方ともは～ない）

④ 復不～＝まタ～ず／（今回もまた～ない）
不復～＝まタ～ず／（二度とは～ない）…一度はするが二度としないの意味。

⑤ 盡（尽）不～＝ことごとク～ず／（すべて～ない）
不盡（尽）～＝ことごとク**ハ**～ず／（すべて～とは限らない）

⑥ 甚不～＝はなはダシク～ず／（ひどく～ない）
不甚～＝はなはダシク**ハ**～ず／（それほど～とは限らない）

問十四　「若(もシ)使(ムルモ)レ呪(まじなハ)レ臣(ヲ)、必(ズ)不(ト)レ能(ハ)レ行(フコト)」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし胡僧が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。
イ　もし陛下が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。
ウ　もし胡僧が私に呪術をかけても、かからないとは限らないでしょう。
エ　もし胡僧が私に呪術をかけても、絶対にかからないでしょう。

問十五　「未尽了。」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

注　了…サ変動詞。

問十六　「不二復解一レ樹」を口語訳せよ。

注　解…（樹木の）株を分割する。

Ｅ「特殊な否定」

①　**未嘗**～＝いまダかつテ～ず／（今まで一度も～ない）

（例）未嘗夜読。〔未だ嘗て夜に読まず。〕（今まで一度も夜中に（書物を）読んだことがない。）

②　**不敢**～＝あヘテ～ず／（決して～ない）

（例）不㆓敢（ヘテ）知（ラ）㆒。〔敢へて知らず。〕（決して知らない。）

> ★似ているので要注意！
> ＊　敢不～（乎）＝あヘテ～ざランや
> 　（どうして～ないことがあろうか、いや～する）

③　**Ａ不可勝Ｂ**＝｛Ａあゲテ Ｂべカラず／Ａ Ｂニたフべカラず｝／（ＡはＢきれないほど多い）

（例）星 不㆑可㆓勝 数㆒。〔　　　　　　　　〕（星は数えきれないほど多い。）

（例）星 不㆑可㆑勝㆑数。〔　　　　　　　　〕（星は数えきれないほど多い。）

④ **無Ａ無Ｂ【ＡとＢが対義語】**＝ＡトなクＢトなク／（ＡとＢの区別なく）

＊ＡとＢが対義語ではないとき＝ＡトシテＢなキハなシ／（ＡにはすべてＢがある）

（例）無貴無賤、…〔　　　　〕（　　　　）

無人無情。〔　　　　〕（　　　　）

⑤ **無Ｎ不Ｖ**＝ＮトシテＶざルハなシ／（ＶしないＮはない＝Ｎなら必ずＶする）

（例）無人不学。〔　　　　〕（　　　　）

復習問題　第三講　受身形　／　否定形

① 「弱キ者ハ被㆓俘略(ふりゃく)セ㆒…」の傍線部の送り仮名を含めた読み方として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

　注　俘略…捕え略奪すること。

ア　るは　　イ　しめ　　ウ　ずして　　エ　られ

② 「不㆑能㆘守㆓此一都㆒、以㆓万人㆒為㆖慮(おもんぱかり)。」の意味として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

　注　為…「為(な)す」。

ア　この一都の守備を整えられず、万民の苦しみを招いた
イ　この一都を守ることも満足にできず、万民の心配のたねとなった
ウ　この一都を守り、万民のことを思いやることができなかった
エ　この一都を守ることができなければ、万民の信用を失うと考えた

③ 「理無㆑不㆑死。」とはどういう意味か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　真理は滅びるものではない。　　イ　真理も滅びないものではない。
ウ　道理として死ぬものはいない。　　エ　道理として死なないものはない。
オ　道理なくして死ぬことはできない。

④

「不ルヲ㆑可カラ㆑不ル㆑与ヘ」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　与えないこともないというように
イ　与えないわけにはいかないように
ウ　決して与えてはならないように
エ　全く与えるつもりはないように
オ　与えたくてしかたがないように

⑤

「不㆓復能㆑察㆓天下之言㆒」は、どう読むか。次の中から最も適当なものを一つ選べ。

ア　ふたたびよくてんかのげんをさっせずして
イ　またてんかのげんをさっするあたはずして
ウ　てんかのげんをさっすることまたよくせずして
エ　またよくせずしててんかのげんをさっし
オ　ふたたびあたはずしててんかのげんをさっし

⑥

「其ノ為人、栄（はえ）アリテ㆓於色ニ㆒而敏ナリ㆓於行（おこなひ）ニ㆒。」の傍線部の読み方として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ひとのため　　　イ　ひとをなすに
ウ　ひととなるに　　エ　ひとをつくる
オ　ひととなり

第四講　疑問形／反語形

一　**疑問形**　※送り仮名が「〜ンや」の場合は、**反語**である。

Ａ「文頭形」

①　**何・奚・胡・曷**＝なんゾ〜／（どうして〜か）

＊　左記の二字熟語としてよくでる。

「**何不**二〜一」＝なんゾ〜ざル／（どうして〜しないのか）

「**何能**〜」＝なんゾよク〜／（どうして〜できるのか）

（例）何不謂。（　　　　　　　）（　　　　　　　）

②　**何**＝
- **なにヲカ**〜／（何を〜か）
- いづレノ〜／（どの〜か）
- いづクニ（カ）〜／（どこに〜か）
- いづレ〜／（どちらの〜）

＊　何日＝いづレノひニカ／（いつ）

＊　何処＝いづレノところニカ／（どこ）

（例）何(ヲカ)能(クスル)。〔何をか能くする。〕（何ができるのか。）

③ **何為**＝なんすレゾ〜／（どうして〜か）

＊ 何為ル者ゾ＝なんするものゾ／（何者か）

＊ 何ヲ為ス二〜一ト＝なにヲ〜トなス／（何を〜と判断するのか）

（例）何為去ルヤレ我。〔　　　　　　　　　　〕（どうして私を追い出すのか。）

④ **誰**＝
- たれカ〜／（誰が〜か）
- たれヲカ〜／（誰を〜か）

＊ 誰カ〜者ゾ＝たれカ〜ものゾ／（誰が〜か）

⑤ **孰**＝
- 「多数」…たれカ〜／（誰が〜か・どれが〜か）
- 「二者択一」…いづレカ〜／（どちらが〜か）→二者が必ず示される

⑥ **何以**＝なにヲもつテ（カ）〜／
- （「理由」…どうして〜か）
- （「手段」…何によって〜か）

⑦ **安・悪・焉**＝
- いづクニカ〜／（どこに〜か）
- いづくンゾ〜／（どうして〜か）

⑧ **如何・奈何・若何**〜＝**いかんゾ**〜／（どうして〜か）

＊ **文末にあれば「いかんセン」**（B「文末形」⑤参照）

Ｂ 「文末形」

① **～乎・哉・耶・邪・也・与・歟。** ＝や・か／（～か）

② **～何也。** ＝～ハなんゾや／（～はどうしてなのか）

（例）云フハレ登ルレ第ニ、何也。〔第に登ると云ふは、何ぞや。〕（試験に合格すると言うのは、どうしてなのか）

③ **幾何。** ＝いくばく（ゾ・カ・ナラン）／（どれくらいだろうか）　＊ 文中の場合も有り。

★「反語」の場合は（～どれくらいだろうか、いや、どれほどでもない）と訳す。

④ **何如・何奈・何若。** ＝**いかん**／（～はどのようであるか）【状態・結果】

（例）以五十歩笑百歩、則何如。〔五十歩を以て百歩を笑はば、則ち何如。〕

（自分は五十歩しか逃げていないと言って百歩逃げた人を笑ったとしたら、どうだろうか。）

⑤ **如何・奈何・若何。** ＝**いかん**（**セン**）／（～はどうするか）【方法】

＊ 如[O]何＝Oヲいかんセン／（Oをどうすればよいか）

★「反語」の場合は（～どうしようもない）と訳す。

（例）若我何。〔　　　　　　　　〕（私をどうしようか、いや、どうしようもできない。）

問一　「奈何」の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

①　なんぞ　②　いづれぞ　③　いかんぞ　④　なんすれぞ　⑤　いづくんぞ

問二　「何以知レ之」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　それがわかるはずがあるだろうか
イ　そのことがいつわかったのか
ウ　何としてもそれを知りたいのか
エ　どうしてそれがわかるのか
オ　誰（だれ）がそれを教えてくれたのか

問三　次の傍線部を「此」が指す内容を明示して口語訳しなさい。

禹出デテ見二罪人ヲ一、下リテレ車ヲ而泣クレ之ニ。左右曰ハク、「〈中略〉君王何為レゾ痛ムコト之至レルカ二於此ニ一也。」

注　禹…中国古代の伝説上の聖天子。
　　左右…側近。近臣。

二　反語形

＊ **一** **疑問**と同じ形のものは基本的に省略します（その場合は**送り仮名「〜ン・〜ンや」が反語の目印**。白文の場合は**文脈判断**）。
それ以外の「**反語**」特有の句法をここで紹介します。

① **豈**〜（**哉・乎**）＝あニ〜**ン**（**や**）／（どうして〜だろうか、いや、〜ない）

（例）豈ニ古之糸(し)竹(ちく)ナラン乎。〔豈に古の糸竹ならんや。〕（どうして昔の楽器であろうか、いや、ちがう。）

② **安・悪・焉・寧**〜（**哉・乎**）＝いづクンゾ〜**ン**（**や**）／（どうして〜だろうか、いや、〜ない）

（例）国焉得レ無レ亡(ほろ)ブル乎。〔　　　　〕（　　　　）

③ **豈能**〜＝あニよク〜**ン**／（どうして〜できるだろうか、いや、できない）
安能〜＝いづクンゾよク〜**ン**／（どうして〜できるだろうか、いや、できない）
誰能〜＝たれカよク〜**ン**／（誰が〜できるだろうか、いや、誰もできない）

④　**敢不〜乎**＝あへテ〜ざ**ランや**　／　（どうして〜しないことがあろうか、いや、〜する）

（例）敢 不 知 乎。〔　　　　　　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑤　**何N之有**＝なんノNカこレあ**ラン**／（何のNがあろうか、いや、何のNもない）

（例）何 難（キコトカ） 之 有。〔　　　　　　　　　　　　　　〕

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑥　**如何・奈何・若何**

〈文頭〉いかんゾ〜**ン**／（どうして〜だろうか、いや、〜ない）

〈文末〉〜ハいかんセン／（〜はどうしようもない）

⑦　**可〜乎**＝〜**ベケンや**／（〜できるだろうか、いや、できない）

（例）何（ゾ） 可（ケンヤ）レ 緩（ゆるクス）。〔何ぞ緩くすべけんや。〕（どうして緩めることができようか、いや、できない。）

＊ 疑問詞〜ン
　　〜ンや
　疑問詞〜ンや ｝＝反語

＊ 〜ン＝推量

問四　「豈古之鶯(おう)花ナラン乎。」の傍線部の読みを、送り仮名も含めて平仮名で示せ。また全文を口語訳せよ。

読み＝

口語訳＝

問五　「晏(あん)子(し)焉知礼」を反語の意味になるように、すべて平仮名で書き下し文にせよ（現代仮名遣いでもよい）。

問六　「豈有ラン下以テシテ二忠信ヲ一而得ルレ罪ヲ者上乎。」を現代語訳せよ。

● 人何ゾ頼ラン焉。〔人何ぞ頼らん。〕（人がどうして頼るだろうか、いや、頼らない。）

● 何ノ功ナルか也。〔何の功なるか。〕（どのような功績であるか。）

問七　「此所レ用翠羽幾何」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　これを作るのに必要な翠羽はとても多い。
イ　これを作るのに必要な翠羽はいくらでもある。
ウ　これを作るにはある程度の翠羽を必要とする。
エ　これに使われた翠羽はたかが知れている。
オ　これに使われた翠羽はどれくらいか分からない。

問八　「城中安得レ有二此獣一」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　まちに虎がいて安全といえるのだろうか
イ　まちに虎がいるはずがないではないか
ウ　まちに鼠がいるのは当然ではないか

復習問題　第四講　疑問形／反語形

①「孰能使㆓之然㆒」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　孰(たれ)ぞ能(よ)く之を然らしめん。
イ　孰(たれ)の能(のう)か之(ゆ)きて然らしめん。
ウ　孰(たれ)か能(よ)く之をして然らしめん。
エ　孰(いづく)んぞ能(よ)く之を然りとせしめん。
オ　孰(いづ)れの能(のう)か之をして然らしめん。

②「可(ケン)㆑不(ル)㆑慎(マ)歟(や)」にはどのような句形が用いられているか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　使役　　イ　反語　　ウ　限定
エ　比較　　オ　禁止

③「豈同㆓他妓㆒哉。」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

ア　どうしても他の妓女たちと同じにしたいのです。
イ　どうやら他の妓女たちと同じらしいのです。
ウ　どうして他の妓女などと同じでありましょうか。
エ　もちろん他の妓女たちと同じはずです。

④ 「不㆓敢西向㆒」について、（Ａ）その読み方と、（Ｂ）これを「敢不㆓西向㆒」と変えた場合の読み方として適当なものを、それぞれ次のａ～ｆ中から一つずつ選び、その組み合わせを後の中から一つ選べ。

ａ　西に向かふことをあへてせず、
ｂ　あへて西せずして向かはず、
ｃ　あへて西に向かはず、
ｄ　あへて西に向かはざらんや、
ｅ　あへて西せずして向かはざらんや、
ｆ　西に向かふことをあへてせざらんや、

	（Ａ）―（Ｂ）
ア	ａ―ｅ
イ	ａ―ｆ
ウ	ｂ―ｄ
エ	ｂ―ｆ
オ	ｃ―ｄ
カ	ｃ―ｅ

第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形

一　詠嘆形

①　**不亦A乎。**　＝またAずや／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

（例）不亦楽乎。〔亦楽しからずや。〕（なんと楽しいではないか。）

②　**豈不A乎。**　＝あニAずや／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

★　豈不～乎＝「豈に～ざらんや」と読めば「　　　　」の意味になり、（　　　　）と訳す。

（例）豈不学乎。（　　　　）（　　　　）

豈不遠乎。（　　　　）（　　　　）

③

何(ゾ)**（其**(レ)**）Ａ（也）**。＝なんゾ（そレ）Ａ（や）／（なんとＡではないか）

（例）何其浅也。〔　　　　　　　　〕（なんと浅薄であろうか。）

④

Ａ（＝連体形）哉(かな)**、Ｎ也**(や)**。**＝Ａかな、Ｎや／（Ａだなあ、Ｎは）

（例）美哉、花也。〔美しきかな、花や。〕（美しいなあ、花は。）

⑤

～乎・哉・矣・夫・与。＝～かな／（～だな）

（例）嗚呼(ああ)美哉。〔嗚呼美しきかな。〕（ああ、美しいなあ。）

⑥

宜(むベナル)**乎。**＝むベナルかな／（もっともだな）

＊乎＝哉

⑦

已(やンヌル)**矣乎**(かな)**。**＝やンヌルかな／（残念だな・どうしようもない）

問一　「不㆓亦宜㆒乎。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　またよろしからず。

イ　またむべならずや。

ウ　またもむべならざらん。

エ　またよろしくせざるなし。

オ　またもよろしくすべからざるなり。

問二　「何其仁ト与㆑明之無㆑不㆑周也」を書き下し文にし、また口語訳もせよ。

注　仁…仁愛。

　明…明察。

　周…「周し（あまねし）」。広くゆきわたる様子。

〈書き下し文〉

〈口語訳〉

二　比較形

①　A$_{二}$（シ・タリ・ナリ）　［於・于・乎］　N$_{一}$（ヨリ（モ））＝Nヨリ（モ）A／（NよりもA）

（例）霜葉紅$_{二}$於二月花$_{一}$。　〔霜葉は二月の花よりも紅なり。〕（霜にあたって紅葉した葉は二月の花よりも赤い。）

注　二月花…ここでは桃の花のこと。

②　不$_{レ}$如（カ）／弗$_{レ}$若（カ）　〜$_{ニ}$＝〜ニしカず／（〜の方がよい・〜に及ばない）

（例）不如釈臣。　〔　　　　　　〕（　　　　　　）

注　釈…「釈（ゆる）す」。許す。

③　莫$_{レ}$如（クハ）／無$_{レ}$若（クハ）　〜$_{ニ}$＝〜ニしクハなシ／（〜にこしたことはない・〜が一番よい）

（例）莫如良医。　〔　　　　　　〕（　　　　　　）

④ 莫（レ）／無（レ）　A（ハ）（二）於N（一）（ヨリ（モ））　＝Nヨリ（モ）Aハなシ／（NよりもAなものはない）

⑤ **莫（シ）（レ）A（＝連体形）（ハ）（レ）焉（これヨリ）**　＝これヨリAハなシ／（これが一番Aだ）

問三　「云（ハバ）（レ）無（シト）（レ）効、則<u>不如貧医</u>。」の傍線部を平仮名で書き下しなさい。

問四　「夫鬱莫（下）甚（二）於病（一）者（上）。」の書き下し文として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ア　それ鬱は病より甚しきもの莫し。
イ　それ鬱は病より甚しきこと莫きか。
ウ　それ鬱は病を甚しくすること莫し。
エ　それ鬱より病を甚しくするもの莫し。
オ　それ鬱として病を甚しくすること莫かれ。

三　仮定形

① **若～**
如～　＝もシ～バ／（もし～ならば）

＊ **下から返らない**

（例）若然ラバ、…　〔若し然らば、…〕（もしそうならば、…）

② **苟～**＝いやシクモ～バ／（もし～ならば・かりにも～）

＊ ①より強い仮定

（例）苟クモ遭ハバ二其ノ時ニ一、…　〔苟くも其の時に遭はば、…〕（かりにもしかるべき時世にめぐり会うなら、…）

③ **縦～**
仮令～　＝たとヒ～トモ／（たとえ～としても）

（例）縦ヒ遮護シテ留ムルモ二旧葉ヲ一、…　〔縦ひ遮護して旧葉を留むるも、…〕
（たとえ覆い守って古い葉を留めておいたとしても、…）

④　**雖**〜=〜トいへどモ／（たとえ〜としても・〜だけれども）

（例）雖レ賢ナリト　…　〔賢なりと雖も…〕（たとえ賢者であっても…／賢者であるけれど…）

⑤　使二NV一レメバ、…=NヲシテVしメバ、…／（もしNがVするならば、…）

⑥　微二〜一なカリセバ、…=〜なカリセバ、…／（〜がなかったならば、…）

問五　次の文の傍線部ａの読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。また傍線部ｂをすべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

「若(a)必ズ禁ジテ、其レ不レ変ゼレバ、則チ雖二造物一有レ所レ不レ能。(b)」

a =

b =

四　限定形

①

徒	特	直	但	只	惟	唯

～ノミ ＝タダ～ノミ／（ただ～だけだ）

（例）惟江上之丈人。〔　　　　〕（ただ揚子江のほとりの老人だけだ。）

注　江上…揚子江のほとり。
　　丈人…老人。

②

独リ～ノミ ＝ひとリ～ノミ／（**ただ**～だけだ）

（例）妾独リ以テレ衛ヲ為スレ有リト二蘧(きよ)伯(はく)玉(ぎよく)一爾(のみ)。〔妾独り衛を以て蘧伯玉有りと為すのみ。〕

注　以レ衛…ここでは「衛の賢明な人物は」の意味。

（私は衛の賢明な人物はただ蘧伯玉だけだと思っていた。）

③

～已（のみ）。
～而已。
～而已矣。
～耳。
～爾。

＝～のみ／（～だけだ）

（例）　若（なんぢ）ハ不ルニ忠信ナラ一耳。〔若は忠信ならざるのみ。〕（お前が忠信でないだけだ。）

問六　「不ルニ徒漢・晋・唐・宋ノミナラ一也。」の傍線部の読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。

問七　「不レ能ハレ安ンズル耳。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。

問八　「唯瓶与ニ漆（しつ）函（かん）一如シレ故（もと）ノ。」の傍線部を書き下し文にせよ。

注　漆函…漆の箱。

五　累加形

① **不**(ず)二**唯**(たダニ)Ａ(ノミナラ)一、（**而**(しかうシテ)）**亦**(また)Ｂ＝たダニＡノミナラず、（しかうシテ）またＢ／（ただ単にAだけでなく、またBでもある）

＊唯＝**独**(ひとり)

（例）叔不二惟(ダニ)薦(ムルノミナラ)レ仲(ヲ)、又能(ク)左三‐右(スルコト)之(ヲ)一如(シ)レ此(クノ)。

〔叔惟だに仲を薦むるのみならず、又能く之を左右すること此くのごとし。〕

（鮑叔は管仲を推薦したばかりではなく、また管仲をこのようにうまく補佐していた。）

② **非**(あらズ)二**唯**(たダニ)Ａ(ノミニ)一、**亦**(また)Ｂ＝たダニＡノミニあらズ、またＢ／（ただ単にAだけでなく、またBでもある）

（例）非(ザル)三徒(ただニ)弗(ざルノミニ)二之(ヲ)貴(バ)一也。

〔徒に之を貴ばざるのみに非ざるなり。〕

（ただ彼を貴ばないだけではないのである。）

③ **豈**(あニ)**唯**(たダニ)Ａ(ノミナランヤ)＝あニたダニＡノミナランヤ／（どうしてAだけであろうか、いや、Aだけではない）

（例）豈独我(ガ)義也哉。

〔豈に独り我が義のみならんや。〕

（どうして私のためだけの道義であろうか、いや、私だけではない。）

問九　「何 独 丘 也 哉。」はどういうことを言っているのか。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

注　丘…孔子の名。ここでは自称。

a　世に認められないのは、私だけではない。
b　世に認められるかどうかは、私のことだけで考えない。
c　世に認められないなかに、私のような者はいない。
d　世に認められなくても、私は私以外の何者でもない。

問十　「豈 独 我 父 哉。」を書き下し文にせよ。

復習問題　第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形

①「不 若 己 者」の書き下し文として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　己より若(わか)からざる者
イ　己の若(ごと)くせざる者
ウ　若(も)しくは己ならざる者
エ　己に若(し)かざる者

②「苟 能ク 弭メレ 兵ヲ…」の傍線部の、送り仮名を含めた読み方として最もふさわしいものを、次の中から選べ。

ア　いづくんぞ
イ　いやしくも
ウ　しかも
エ　けだし

③「雖ニ 貧 賤ノ 廝(し) 養(やう)一、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　であれば　　イ　であっても　　ウ　だけではなく
エ　よりはむしろ　　オ　でありながら

④「苟クモ以テ㆓自ラ奉養スルヲ㆒為サバ㆑意ト、使メン㆓天下之人ヲシテ何ヲカ仰ガ㆒哉。」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし私が我が身を養うことばかり考えたならば、天下の人々は誰をも敬わないであろう。

イ　もし天下の人々が我が身を養うことばかり考えたならば、誰も他人を敬わないであろう。

ウ　もし私が我が身を養うことばかり考えたとしても、天下の人々が私を敬わないはずはないであろう。

エ　わずかでも私が我が身を養おうと考えたならば、天下の人々は誰にも敬意を払わなくなるであろう。

オ　わずかでも天下の人々が我が身を養おうと考えたならば、誰も他人に敬意を払わなくなるであろう。

⑤「唯」と同じ意味・用法を持つ語はどれか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　凡　　イ　夫　　ウ　只　　エ　抑　　オ　蓋

⑥「豈惟其君無道、亦由㆔股肱無㆓良臣㆒」の読み方として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

ア　豈(あ)に惟(た)だ其(そ)の君(きみ)の無道(むだう)は、亦(また)股肱(ここう)の良臣(りやうしん)無(な)きに由(よ)るのみ

イ　豈(あ)に惟(た)だ其(そ)の君(きみ)の無道(むだう)なるのみならんや、亦(また)股肱(ここう)に良臣(りやうしん)無(な)きに由(よ)る

ウ　豈(あ)に惟(おも)はん　其(そ)の君(きみ)無道(むだう)なれば、亦(また)股肱(ここう)の良臣(りやうしん)無(な)きに由(よし)ありと

エ　豈(あ)に惟(おも)ふ　其(そ)の君(きみ)無道(むだう)にして、亦(また)股肱(ここう)に良臣(りやうしん)無(な)きは由(よし)なりと

第六講　抑揚形／願望形／その他

一　抑揚形

① **A 且（スラかツ）B。況（いはンヤ）C 乎（ヲや）。**　＝Aスラかツ B。いはンヤCヲや。／（AでさえB。ましてCはなおさらだ。）

　＊且＝**猶（なホ）・尚（なホ）**

（例）匹夫猶不㆑欲㆓食言㆒、況至尊乎。

〔匹夫猶ほ食言せんと欲せず、況んや至尊においてをや。〕

（身分の低い者でさえいつわりを述べようとはしない、
ましてや身分の高いものならなおさらである。）

② **況（いはンヤ）～乎（ヲや）。**　＝いはンヤ～ヲや／（まして～はなおさらだ）

③ **而（しかルヲ）況（いはンヤ）於（おイテヲ）～乎（ニや）。**　＝しかルヲいはンヤ～ニおイテヲや／（まして～においてはなおさらだ）

問一　「不（ルスラ）㆑適（サ）㆓於用（ニ）㆒、人猶貴（ホブ）㆑之（ヲ）。<u>況其適㆓於用㆒者乎。</u>」の傍線部をすべて平仮名で書き下し文にせよ。

＊「適」＝サ変動詞で考えてください。冒頭部分は、出典大学の通り「適さざる」という送り仮名にしてありますがご了承ください。

問二　「児衣在レ側、尚齧、況鞍懸レ柱乎。」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
② 太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
③ 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、鞍を柱に懸けておくべきではなかった。
④ 太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。
⑤ 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。

問三　「況(いはンヤ)能(よク)舎(すテテ)レ母(ヲ)而与(ためニ)二公軍(ノ)一事(ヘンや)耶。」を現代語訳せよ。

注　公軍…公の軍隊。
　　事…「事(つか)ふ」。仕える。

二　願望形

① **願**＝ねがハクハ～ ｛～ン／命令｝

② **請**＝こフ～ ｛～ン／命令｝

③ **庶**＝こひねがハクハ～ ｛～ン／命令｝

＊庶＝幾／庶幾

★ ①～③ ｛～ン…どうか～させて下さい／命令…どうか～して下さい｝

（例） 願ハクハ聞カン二其ノ説ヲ一。　〔願はくは其の説を聞かん。〕　（どうかその説明を　　　　。）

願ハクハ察セヨレ之ヲ。　〔願はくは之を察せよ。〕　（どうかこれを　　　　。）

問四 「臣請フ、道ハン二三言ヲ一而已。」を現代語訳せよ。

三　その他

①　以為

(1)　**以為**（おもヘラク）〜（ト）＝おもヘラク〜ト／（〜と思う）

(2)　**以**（もつテ）**為**（なス）A（ト）＝もつテAトなス／（Aと思う）

(3)　**以**（もつテ）A（ヲ）**為**（なス）B（ト）＝AヲもつテBトなス／（AをB　にする）／と思う）／と考える））

***以〜＝〜ヲもつテ　【理由や手段を示す】**

(1)　以（テス）二〜（ヲ）一。＝〜ヲもつテス／（〜でする）

(2)　以（テ）二〜（ヲ）一也。＝〜ヲもつテなり／（〜からである）

②「すなはチ」の訳し方　＊(1)〜(6)の読みは全て「すなはチ」

(1) **則**＝（もし〜たら）

（例）則チ践ミ二鋒(ほう)刃(じん)ヲ一、入レバ二湯火ニ一、…　〔則ち鋒刃を践み、湯火に入れば、…〕
（もし鋭い刃を踏み、熱湯や火中に入ったならば、…）

＊〜バ(ハ)―則チ―…「則」＝訳さない

(2) **即**＝（すぐに）

（例）樹即チ応ヘテレ声ニ、…　〔樹即ち声に応へて、…〕　（木はすぐに声に反応して、…）

(3) **便**＝（すぐに・たやすく・簡単に）

（例）便チ合セテ二財産ヲ一、…　〔便ち財産を合せて、…〕　（すぐに財産を一緒にして、…）

(4) **乃**＝（そこで・やっと・なんと）

（例）乃チ告グレ之ニ。　〔乃ち之に告ぐ。〕　（やっとこの人に告げた。）

注　之…ここでは「この人」の意味。

(5) **輒**＝（そのたびごとに・いつも）

（例）至リテハ二於百姓ノ租税一ニ、動モスレバ輒チ蠲免ス。〔百姓の租税に至りては、動もすれば輒ち蠲免す。〕

注　蠲免…租税を免除する。

（人民の租税に至っては、とかくいつも免除する。）

(6) **而**＝（そこで）

問五　「病児服シテレ薬ヲ、云ハバレ無シトレ効、<u>則不如貧医</u>。」の傍線部を現代仮名遣いで書き下しなさい。

③ **欲**

(1) **欲**N＝N**ヲ**ほつス
(2) **欲**V＝V**ント**ほつス
／（～したいと思う・～しようとする）

（例）欲渡。〔　　　　〕（渡ろうとする。）

問六　「必欲使之在尊貴之所」について、（ａ）返り点の付け方と書き下し文、（ｂ）その解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

（ａ）
①　必欲レ使レ之在二尊貴之一所　　必ず之を使はんと欲するは尊貴の在る所なり
②　必欲レ使三之在二尊貴之所一　　必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す
③　必欲三使之在二尊貴之所一　　必ず使ひの尊貴の所に在らんことを欲す
④　必欲三使レ之在二尊貴一之所　　必ず之を使ひて尊貴に在らんと欲するの所なり
⑤　必欲使三之在二尊貴一之所　　必ず欲して之をして尊貴に在らしむるの所ならん

（ｂ）
①　必ず教え子を高い地位につかせてやりたいと思う。
②　必ず教え子を高官のもとに派遣したいと思う。
③　必ず教え子を皇帝の役に立つ人物にしたいと思う。
④　教え子をなんとかして出世させたいと思った結果である。
⑤　教え子に正しい教育を施してやりたいと思う理由である。

④　倒置がおこる場合

(1)　否定文中の目的語か補語が代名詞の場合

(例)　未之聞。〔未だ之を聞かず。〕（まだこれを聞いていない。）

不汝与。〔汝に与へず。〕（お前に与えない。）

(2)　「詠嘆」の「A哉、N也。」の句法

(例)　美哉、花也。〔美しきかな、花や。〕

(3)　目的語が疑問詞の場合

(例)　何ヲカ書ク。〔何をか書く。〕（何を書くのか。）

(4)　「以」を用いる場合

(例)　以ツテレ銭ヲ与フ。〔銭を以つて与ふ。〕（お金を与える。）

(5)　「之」を用いる場合

(例)　此レヲ之レ謂フ。〔此れを之れ謂ふ。〕（これを言う。）

★補足

一 「複数の句法に使用される漢字」

① 於・于・乎（文中）

(1) **置き字**

(2) 「　　　」V二於N一　＊N＝Vの動作主　（　　　　　　）

(3) 「　　　」A二於N一　（　　　　　　）

② 敢

(1) **敢**(あヘテ)＝（すすんで・わざわざ・おもいきって）

(2) **安**(いづくンゾ)**敢**(あヘテ)**〜**ン(ヤ)＝（　　　　　　）

(3) **不敢〜**＝〔　　　　〕／（　　　　　　）

(4) **敢不〜乎。**＝〔　　　　〕／（　　　　　　）

③ **若・如**

(1) **文頭**にあって**下から返らない**とき「　　」／（　　）

(2) **下から返る**とき「**比況の助動詞**」ごとシ／（～のようだ・～と同じだ）

(3) **不レ如**・**弗レ若**　～ニ＝（～　　）／（　　）

莫レ如・**無レ若**　～ニ＝（～　　）／（　　）

(4)「**疑問**」

〈文頭〉如何・若何～＝（　　）／（　　）

〈文末〉如何・若何。＝（　　）／（～は　　）【　　】

〈文末〉何如・何若。＝（　　）／（～は　　）【　　】

(5)「**反語**」

如何・若何

〈文頭〉（　　）／（　　）

〈文末〉（　　）／（　　）

④ 能

(1) **能**＝〔　　　〕／（　　　）

＊ **善**(よク)＝～することが上手だ

銭(せん) 明(めい) 経(けい) 善レ詩。〔銭明経詩を善くす。〕（銭明経は詩を作ることが上手だ。）

(2) **不レ能**＝〔　　　〕／（　　　）

(3) **安**(いづクンゾ) **能**～ン(ヤ)・**豈**(あニ) **能**～ン(ヤ)／（　　　）

⑤ 而

(1) 文中で読まないとき＝置き字

(2) 文頭＝読む（置き字ではない）

(3) すなはチ（そこで）

(4) なんぢ〈＝汝・女・爾・若〉／（あなた・あなたたち）

二 「基本的な漢字の読み・（意味）」

【人物・人格・位・立場など】

1 我・吾《われ》・己《おのれ》・余・予・某《ぼう》・某《それがし》（私・私たち）

2 臣《しん》（君主に対して「私」）

3 妾《しょう》（女性の「私」）

4 朕《ちん》（天子の自称）

5 寡人《かじん》・孤《こ》（諸侯〈＝天子から領地を分与された君主〉・王の自称）

6 不肖《ふしょう》（〈立派な親に似ず愚かな人の意味〉→①私　②愚か者）

7 汝《なんぢ》・女《なんぢ》・若《なんぢ》・爾《なんぢ》・而《なんぢ》・子《し》・卿《けい》・吾子《ごし》（あなた・あなたたち）

8 君《くん》（①あなた・あなたたち　②お殿様　③君主）

9 足下《そっか》（〈手紙文で〉あなた）

10 上《しょう》（天子）

11 相《しょう》（宰相）

12 左右《さゆう》（近臣）

13 公卿《こうけい》（高位高官）

14 大夫《たいふ》（中級の官）

15 吏《り》（下級役人）

16 庶人《しょにん》（庶民）

17 百姓《ひゃくせい》（民衆）

18 故人《こじん》（旧友）

19 知己《ちき》・知音《ちいん》（理解者・親友）

20 君子《くんし》（立派な人）↔小人《しょうにん》（つまらない人・身分の低い人）

21 賢《けん》（すぐれている人）↔不肖

22 字《あざな》（別名）

【その他】

1　城＝じょう（町）

2　為人＝ひとトなリ（人柄）

3　者＝しゃ・もの・は・昔者（むかし）・今者（いま）

4　人間＝じんかん（世の中・俗世間）

5　理＝り（道理）

6　所以＝ゆゑん（原因・理由・手段・方法）

7　謂曰＝いヒテいはク

8　道＝いフ（言う）

9　対曰＝こたヘテいはク　＊対＝こたフ（目上の人にお答えする）

10　白＝まうス（申す・告げる）

11　中＝あたル

12　**竟**＝おはル

13　困＝くるシム

14　**卒**＝しゅつス（亡くなる）

15　烹＝にラル

16　愛＝をしム（惜しむ）

17　事＝つかフ（お仕えする）・ことトス（実践する）

18　作＝なス・つくル

19　就＝つク（おもむく・とりかかる）・なル（できあがる）・なス（しあげる）

20　之＝の・これ・ゆク

21　已＝すでニ・やム・のみ

22　過＝～ニよギル（～を訪問する）・すグ・あやまツ（間違える）・あやまチ

23　悪＝にくム・そしル・いづクンゾ・いづクニカ

24　且＝
- まさニ～ントす（今にも～しようとする）
- かツ（さらに・そのうえ・そもそも）
- しばらク（まあ）

25　為＝
- ～ノためニ
- ～トなル
- ～ヲなス（～を行う）
- ～トなス（～とする）
- ～ヲつくル
- ～ヲをさム（～を治める）
- たリ（断定）
- る・らる（受身）

26　与＝
- と↓「読み」の問題として一番頻出。下から返る。
- あたフ
- くみス（味方する・賛成する）
- あづかル（関係する）
- ともニス
- ともニ（一緒に）
- よリハ
- か・かな↑～与。（＝文末）

＊下から返らないときは「ためニ」。（他の読みは下から返る。「ためニ」も下から返る時もある）

27　寡＝すくなシ　　28　衆＝おほシ　　29　少＝わかシ（若い・年少）

30　蓋＝けだシ（たぶん・思うに）　　31　凡＝およソ（そもそも）

32　夫＝そレ（そもそも）　　33　抑々＝そもそも

34　数々＝しばしば（たびたび）　　35　偶々＝たまたま　　36　適々＝たまたま

37　終・**卒**・遂・**竟**＝つひニ

38　固＝もとヨリ（もともと・言うまでもなく）　　39　素＝もとヨリ（平素から）

40　動＝ややモスレバ（とかく↑そうする傾向が強いこと）

41　毎＝～ごとニ・つねニ

42　方＝まさニ（ちょうど・これから・そこで）

43　所謂＝いはゆる（世間一般に言われる）

44　私・陰・窃＝ひそかニ

45 俄・卒・暴・遽＝にはかニ（急に）
46 早＝つとニ
47 嘗＝かつテ
48 忽＝たちまチ（急に）
49 徒＝たダ～ノミ・いたづらニ
50 因＝ちなみニ・よりテ（そこで）
51 如是・如此＝かクノごとシ（このようだ）
52 是以＝ここヲもつテ（だから・こういうわけで）
53 以是＝これヲもつテ（これで）
54 於是＝ここニおいテ（そこで）
55 未幾＝いまダいくばくナラず（まもなく）
56 須臾＝しゅゆニシテ（まもなく）
57 無幾何＝いくばくモなク（まもなく）
58 無幾＝いくばくモなシ（ほんの少し）

【身分がわかる動詞】

1 対＝こたフ（**目下から目上の人に**お答えする）
2 諫む＝いさム（**目下から目上の人に**注意する）
3 崩ず＝ほうズ（**天子が**亡くなる）
4 薨ず＝こうズ（**諸侯が**亡くなる）
5 弑す＝しいス（**子・臣が親・君を**殺す）

【時間】

1　光陰＝こういん（時間）
2　期年＝きねん（丸一年）
3　四時＝しいじ・しじ（春夏秋冬）
4　一旦＝いったん（ある朝）
5　一夕＝いっせき（ある夜・ひと晩）
6　夙夜＝しゅくや（早朝から晩まで）
7　他日＝たじつ（以前のある日・将来のある日）
8　百代＝はくたい（長い時間）
9　千載＝せんざい（千年・長い年月）
10　暮年＝ぼねん（晩年）
11　天年＝てんねん（寿命・天寿）

復習問題　第六講　抑揚形／願望形／その他

① 「天スラ尚ホ如シㇾ此かくノ、況ンヤ於テヲㇾ君ニ乎や」にはどのような句形が用いられているか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　受身　　イ　疑問　　ウ　反語

エ　抑揚　　オ　限定

② 「矧」は「いはんや」と読む。（１）同じ読み方をする文字を、（２）「矧」を用いた表現法には、どのような表現意図があるといえるか、それぞれ最も適当なものを次の中から選べ。

（１）ア　謂　　イ　況　　ウ　豈　　エ　安

（２）ア　まず最初に困難な状況を述べ、次に「いはんや」に続けてそれ以上に困難な状況を述べることで、後者の状況の困難さがきわめて深刻であることを示す意図がある

イ　まず最初に既知の事実を述べ、次に「いはんや」に続けて未知の事実を述べることで、前者の既知であったはずの事実さえも未知であるかのように見せる意図がある

ウ　まず最初にある状況への判断を述べ、次に「いはんや」に続けて一層進んだ状況への判断を述べることで、後者の判断が自明のものであることを強調する意図がある

エ　まず最初に当たり前の事実を述べ、次に「いはんや」に続けてあり得ない事実を述べることで、前者の当たり前の事実が当然とまでは言い切れないことを示す意図がある

③「きみからの手紙」という語として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　拙所　　イ　行書　　ウ　頓首書　　エ　足下書

④「その結果」という意味の語として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　蓋　　イ　遂　　ウ　便　　エ　率

⑤「素」の送り仮名を含めた読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　まさに　　イ　また　　ウ　もとより　　エ　つねに

⑥「未レ幾」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　突然に　　イ　思いがけず　　ウ　おもむろに　　エ　たえず　　オ　まもなく

第七講　漢詩／漢文読解法

一　漢詩の基礎知識

A「形式」

① 五言詩（一行五文字）／七言詩（一行七文字）

② **絶句（四行）**／**律詩（八行）**／古詩（それ以外）

＊「一行の字数」と「行数」から①と②を組み合わせて答える。
（例）五言絶句・七言律詩…など。

B「押韻する字」…音読みしたときに母音が同じ

＊ ●＝押韻している文字

① 五言詩＝**偶数句の末字**

○○○○○　○○○○●
○○○○○　○○○○●

② 七言詩＝**（初句と）偶数句**の**末字**

○○○○○○●　○○○○○○●
○○○○○○○　○○○○○○●

C　**「対句の見分け方」**

奇数句・偶数句の順で**返り点の打ち方が同じ**（ただし、再読文字を含むときは除く）場合は、ほぼ対句（＊例外も多いので注意）。**品詞・文構造・意味内容ともに対称**である点がポイント。

＊律詩（八行）の場合、「**三句と四句**」と「**五句と六句**」が原則として対句。

たとえば、李白の「送友人」は「一句と二句」「五句と六句」が対句で、このように例外もあります。両方でも、どちらかでも、また、それ以外の「一句と二句」や「七句と八句」も対句になっている場合も、対句は見ればわかるはずですので、「対句の見分け方」をしっかりおさえて確認してください。

D　**「段落分け」**

①　四行＝一行ずつ（**起承転結**）

②　六〜十行＝二行ずつ　＊律詩➡首聯（しゅれん）・頷聯（がんれん）・頸聯（けいれん）・尾聯（びれん）

③　十二行以上＝四行ずつ

★主題は最終段落

E　**「意味のまとまり」**

①　五言詩＝２・３　（例）十月鷹出籠

②　七言詩＝２・２・３　（例）炎（えん）涼（りやう）昏（こん）暁（げう）苦（はなはダ）推遷（シ）

注　推遷…移り変わる。

二　次の詩を読んで、後の**問**に答えよ。

沙場征(せい)戍(じゅ)ノ客
寒苦若(い)為(か)ニカ眠ル
戦袍経(ふ)二手作ヲ一
知ランレ落ツルヲ二阿(た)誰(れ)ノ辺ニカ一
蓄ヘテレ意ヲ多ク添ヘレ線ヲ
含ンデレ情ヲ更ニ着クレ綿ヲ
今生已ニ過グル也
結ビ二-取ラン後身ノ縁ヲ一

問一　この詩の形式を答えなさい。

問二　韻字をすべて抜き出しなさい。

問三　対句が何組用いられているか、答えなさい。

三　次の詩を読んで、後の**問**に答えよ。

我来リテ二揚子江頭ニ一望メバ
一片ノ白雲数点ノ□
安得丁置キ二身ヲ天柱頂ニ一
倒(さかしまニ)看ルヲ丙日月ノ走ルヲ乙人間ヲ甲

注　揚子江…長江の別名。
　　天柱…神話の中に出てくる、天を支えているという柱。

問一　この詩の形式を答えよ。

問二　傍線部「一片白雲数点□」について、(a)空欄に入る語と、(b)この句全体の解釈との組合せとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　(a)淡――(b)白い雲の切れ間から数本の淡い光が差し込んでいる。
イ　(a)楼――(b)空の片隅に浮く白い雲と幾つかの建物が見えている。
ウ　(a)雨――(b)白い雲が空一面に広がり雨がぽつぽつと降り始める。
エ　(a)山――(b)ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。
オ　(a)鳥――(b)空には一つの白い雲が漂い数羽の鳥が飛んでいる。

四　漢文読解法

【手順】

① 設問チェック
　＊ 句法・語法で解けるもの＝即解答
　＊ 絞れる選択肢は絞っておく
　＊ その他は何をきかれているかを確認

② 注マーク確認

③ 前書きの有無確認→あれば必ずきちんと読むこと

（④ 出典確認）

【設問別解法】

〈単語の意味〉

・仲間外れの選択肢が一つだけ＝それが解答

〔例題一〕 次の中から「過」の意味が異なるものを選べ。

ア 過度　イ 過酷　ウ 過失　エ 過剰　オ 超過

・二字熟語にして意味を類推する

〔例題二〕 次の傍線部のここでの意味と同様の意味を表す熟語として最も適当なものを選べ。

好ミテ二行幸ヲ一不レ息、人ノ所ナリレ不ルレ堪ヘ。

ア 棲息　イ 利息　ウ 嘆息　エ 終息

〈書き下し文〉

・基本構造＝語順確認➡送り仮名確認
・重要句法確認
・傍線部の前後に**対句**・**対文**がないか確認
・訳してみて意味不明な場合＝誤り
・選んだ訳を本文中にあてはめ、文脈確認

〈理由〉

・傍線部自体を正確に訳す
➡**傍線部を本文で確認**＝設問箇所では白文でも、本文中には返り点や送り仮名がついていることもある（左記の解釈・部分説明も同様）。
・傍線部の前後に注目

〈解釈・部分説明〉

・傍線部を含む一文全体を読む
・指示語があれば指示内容を明確にする
・傍線部前後の文脈を確認

〈主張・主題〉

・**結末部**

五　次の文章を読んで、後の**問**に答えよ。（設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。）

放ツレ鷹（たか）ヲ　　白（はく）居（きょ）易（い）

①十月鷹出デレ籠（かご）ヲ、　②草枯レテ雉（ち）兎（と）肥ユ。

③下リテレ韝（こう）（注1）ヨリ随（したが）ヒ二指顧（注2）ニ一、　④百擲（てき）（注3）シテ無シ二一 A 一。

⑤鷹ノ翅（つばさ）疾（はや）キコト如クレ風ノ、　⑥鷹ノ爪（つめ）利（するど）キコト如シレ錐（きり）ノ。

⑦〔B〕本為（な）リ二鳥ノ所ト㆑設クル、　⑧今為ル二人ノ所ト㆑資スル。〔B〕

⑨〔C〕孰能使二之然一、〔C〕　⑩有リ二術ノ甚ダ易（やす）キ㆑知リ。

⑪〔D〕取リ二其ノ向背ノ性ヲ一、〔D〕　⑫制スルハ在リ二飢飽ノ時ニ一。

⑬ 不可使長飽、
⑭ 不可使長飢。
⑮ 飢則力不足、
⑯ 飽則背人飛。
⑰ 乗飢縦搏（注4）撃、
⑱ 未飽須縶（注5）維。
⑲ 所以爪翅功、
⑳ 而人坐収之。
㉑ 聖明馭英雄、
㉒ 其術亦如斯。
㉓ E鄙語不可棄、
㉔ 吾聞諸猟師。

（『白香山詩集』による）

（注）
1 韝——鷹を止まらせるために腕につける革具。
2 指顧——指さし顧みること。指示。
3 擲——投げ放つ。
4 搏撃——襲いかかる。
5 縶維——つなぐ。

問一 空欄 A に入る語として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 中　イ 遺　ウ 敗　エ 至　オ 失

問二　この詩の中には対句が用いられている。次の組み合わせの中から双方とも対句であるものを選ぶとすれば、どれが最も適当か。次の中から一つ選べ。

ア　①②と⑪⑫　　イ　⑤⑥と⑮⑯　　ウ　⑦⑧と⑬⑭
エ　⑬⑭と⑮⑯　　オ　⑰⑱と㉑㉒

問三　傍線部Ｂ「本 為㆓鳥 所㆒㆑設、今 為㆓人 所㆒㆑資」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　鷹は、もともと獲物を捕る才能を備えており、今も人のために役立っている。
イ　小鳥は、もともと鷹が食料としていたものであるが、今では人が食料としている。
ウ　雉(きじ)や兎(うさぎ)は、もともと鷹のために天が授けたものであるが、今は人の食料となっている。
エ　翼や爪は、もともと鷹のために付けられているものなのに、今は人に利用されている。
オ　鷹狩りは、もともと鷹の訓練のために始められたものであるが、今では人の娯楽となっている。

問四　傍線部Ｃ「孰 能 使㆓之 然㆒」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　孰(たれ)ぞ能(よ)く之を然らしめん。　　イ　孰(たれ)の能(のう)か之(ゆ)きて然らしめん。
ウ　孰(たれ)か能(よ)く之をして然らしめん。　　エ　孰(いづく)んぞ能(よ)く之を然りとせしめん。
オ　孰(いづ)れの能(のう)か之をして然らしめん。

問五　傍線部Ｄ「取二其向背性一」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　獲物が鷹を恐れて背を向ける習性を利用する。
イ　鷹が何を好んで何を嫌うのかをよく見て取る。
ウ　鷹が獲物の背後に向かう性質をよく読み取る。
エ　鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用する。
オ　鷹狩りの際に方角や位置に利があるかないかを読み取る。

問六　傍線部Ｅ「鄙語不レ可レ棄」とあるが、なぜ作者はこのように言っているのか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　単に鷹狩りの話ではあるが、弱肉強食の人間界を風刺しているから。
イ　無味乾燥な政治の話ではあるが、純朴な猟師に聞かせても納得したから。
ウ　一介の猟師から聞いた話ではあるが、実に動物の習性を研究し尽くしているから。
エ　私のような門外漢の観察記ではあるが、猟師に聞いても間違っていなかったから。
オ　猟師から耳にした卑俗な話ではあるが、名君と臣下との関係を示唆しているから。

復習問題　第七講　漢詩／漢文読解法

① 次の詩を読んで、後の問に答えよ。

江[*1]楼夕望招ク レ 客ヲ

第1句　海天東望夕茫[*2](ぼう)茫(ぼう)
第2句　山勢川形闊復長
第3句　灯火万家城ノ四畔
第4句　星河一道水ノ中央
第5句　風ハ吹ク 二 古木ヲ 一 晴天ノ雨
第6句　月ハ照ラス 二 平沙ヲ 一 夏ノ夜ノ霜
第7句　能[*3](よク)就[*4](つキテ) 二 江楼ニ 一 銷(けスヤ) レ 暑ヲ否(いなヤ)
第8句　比[*5]スレバ 二 君ガ茅[*6](ばう)舎(しや)ニ 一 校(やや)清涼ナラン

（白居易『白氏文集』）

［注］
＊１　江楼＝江(かわ)のほとりのたかどの。
＊２　茫茫＝ひろびろとしている。
＊３　能…否＝…することができますか？
＊４　就＝（場所）で。
＊５　比…校…＝…にくらべて少しは…。
＊６　茅舎＝茅葺(かやぶ)きの家。

問１　第２句の書き下し文として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　山の勢い川の形の闊(ひろ)く長きを復(ふく)す。
イ　山勢川形、闊(ひろ)くして復(また)長し。
ウ　山は川の形の闊(ひろ)くして、復(また)長く勢いよし。
エ　山の勢いも川の形も、闊(ひろ)くして復(ふたたび)長し。

問２　この詩には二組の対句がある。その組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　第１句と第２句　　第３句と第４句
イ　第２句と第４句　　第５句と第６句
ウ　第３句と第４句　　第５句と第６句
エ　第４句と第５句　　第６句と第７句

② 傍線部について、空欄に入る語として最も適当なものを、後の中から選べ。

銅雀台址頽無遺　何乃剰瓦多如斯
文士例有好奇癖　心知其妄姑自□

ア 愉　イ 娯　ウ 詐　エ 欺　オ 虚

③ 次の詩を読んで、後の問に答えよ。

春江　（唐）白居易

① 炎(注1)涼昏暁苦推遷(注2)
② 不覚忠(注3)州已二年
③ 閉(注4)閣只聴朝暮(注5)鼓
④ 上楼空望往来船

⑤ 鶯(あう)声(せい)ニ誘(いう)引(いん)セラレテ来タリ二花下ニ一

⑥ 草色ニ勾(こう)留(りう)セラレテ坐ス二水辺ニ一

⑦ 唯有春江看未厭

⑧ 縈(めぐ)リレ砂ヲ遶(めぐ)リテレ石ヲ緑潺(せん)(注6)湲(ゑん)タリ

（『白氏文集』巻十八による）

（注）
1 炎涼昏暁――厚さと寒さ、夜と朝。
2 推遷――移り変わる。
3 忠州――今の四川省忠県。作者はここに左遷され、二年間の役人生活を送った。
4 閉レ閣――建物にとじこもること。
5 朝暮鼓――朝夕の時刻を知らせる太鼓の音。
6 潺湲――水のさらさら流れるさま。

問1 この詩は七言律詩である。押韻しているのはどの字か。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 遷　年　船　湲
イ 年　船　辺　湲
ウ 遷　年　船　厭　湲
エ 遷　年　船　辺　湲
オ 年　船　辺　厭　湲

問２　三、四句が対句になっていることに留意しつつ、四句目の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　楼に上りて空しく望む往来の船
イ　楼に上りて空望するや往来の船
ウ　楼を上りて空より望めば往来の船
エ　楼を上りて空しく望めば船往来す
オ　楼に上りて空より望めば船往来す

第八講　実践練習(1)

一　次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

子曰ク、商(しょう)也(や)好ミテ^A^与二賢(まさル)レ己ニ者一処(をリ)、賜(し)也好ミテ与二^B^不若己者一処ル。不レバレ知ラ二其ノ子ヲ一^C^視二其ノ父ヲ一、不レバレ知ラ二其ノ人ヲ一視二其ノ友ヲ一、不レバレ知ラ二其ノ君ヲ一^D^視其所使、不レバレ知ラ二其ノ地ヲ一視ル二其ノ草木ヲ一。故ニ曰ク、与二善人一居ルハ、如シレ入ルガ二芝(し)蘭(らん)之室ニ一。久シクシテ而不レ聞カ二其ノ香ヲ一。即チ与レ之化セリ矣。与二不善人一居ルハ、如シレ入ルガ二鮑(ほう)魚(ぎょ)之肆(し)ニ一。久シクシテ而不レ聞カ二其ノ臭(しゅう)ヲ一。^E^亦与レ之化セリト矣。

（『孔子家語』による）

（注）子＝孔子。　商＝孔子の門人、子夏の名。　賜＝孔子の門人、子貢の名。
芝蘭＝霊芝と蘭で、いずれも香りの高い植物。　鮑魚＝魚の干物。　肆＝店。

問一　傍線部A「与」、C「視」、E「亦」の訓読みを、平がなの現代かなづかいで書け。

A＝

C＝

E＝

問二　傍線部Ｂ「不 若 己 者」の書き下し文として最も適切なものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　己より若(わか)からざる者
２　己の若(ごと)くせざる者
３　若(も)しくは己ならざる者
４　己に若(し)かざる者

問三　傍線部Ｄ「視 其 所 使」に、返り点を付けなさい（送り仮名は付けないこと）。

視　其　所　使

問四　本文の内容と最もよく合致するものを、次の１～４の中から一つ選べ。

１　商は自分より優れた者と交遊したため、彼らと同等になろうと強い向上心をもって努力した。
２　賜は自分より年長の者との交遊を好んだため、落ち着きがあり、風格のある人物になった。
３　優れた人たちと一緒にいると、ひとりでにその人たちに影響され、優れた人物になる。
４　よくない人たちと一緒にいると、彼らを反面教師とするために、行いを慎むようになる。

二　次の文章は『西京雑記』の一節である。これを読んで、あとの設問に答えよ（なお、設問の都合で返り点・送りがなを省略したところがある）。

婁敬始メテ1因リテ虞将軍ニ2請ヒテ見エントスルニ高祖ニ、衣旃衣、披羊裘。虞将軍脱ギテ其ノ身上ノ衣服ヲ以テ衣セシメントス之ニ。敬曰ハク、3敬本衣帛、則衣帛見。敬本衣旃、則衣旃見。今捨テテ旃褐ヲ、仮ラバ鮮華ヲ、是レ矯ムルナリ常ヲ也。4不敢脱羊裘、而衣テ旃衣ヲ以テ見ユ高祖ニ。

（注）
○婁敬――斉の人で、兵卒の出身だったが、高祖に都を長安にすべきと最初に進言した功績により、後に高祖と同じ劉姓を賜った。
○虞将軍――高祖の部下。
○高祖――前漢の初代皇帝、劉邦のことをいう。
○旃衣――粗末な毛織物の上着。
○羊裘――羊の毛皮でつくった衣類。
○帛――絹織物。
○旃褐――粗末な衣類のこと。
○鮮華――華やかな衣類のこと。

問一　傍線部１「因」と同じ意味をもつ字を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　依　②　原　③　以　④　及　⑤　本

問二　傍線部２「請」と同じ意味で「請」の字が用いられていない熟語を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　請願　②　請雨　③　請負　④　要請　⑤　請求

問三　傍線部３「敬本衣帛、則衣帛見」の書き下し文の読みとして最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　けいのもとははくをき、したがひてはくをきるをあらはす。
②　けいもとよりはくをきれば、すなはちはくをきてまみえん。
③　もとをうやまひてはくをきれば、すなはちはくをきられん。
④　けいもとのころもははくたれども、のりのころもははくとみる。
⑤　うやまひてはくをきるをほんとし、すなはちはくをきるにまみゆ。

問四　傍線部４「不敢脱羊裘」は「あへてやうきうをぬがずして」と読む。

（１）この読みに従って、返り点のみを付けよ。

不　敢　脱　羊　裘

（2）このような行動をとった理由を説明せよ。

三　次の文章を読んで、問いに答えよ（設問の都合上、訓点を省略した部分がある）。

晋向靖字奉仁、河内人也。在呉興郡、喪数歳女。女始病時、弄小刀子、母奪取不与、傷母手。喪後一年、母又産一女。女年四歳、謂母曰、「前時刀子①何在。」母曰、「無也。」女曰、「昔争刀子、故傷母手。云何無耶。」母甚驚怪、具以告靖。靖曰、「先刀子猶在不。」母曰、「②痛念前女、故不録之。」靖曰、「③可更覓数箇刀子、合置一処、令女自択。」女見大喜、即取先者曰、「此是児許。」父母大小乃④知前女審其先身。

（『冥祥記』）

（注）　向靖＝人名。　河内＝地名。
呉興郡＝地名。　刀子＝小刀（こがたな）。

問一　傍線①の「何」の読み方を、送りがなも含めてひらがなで書け。

問二　傍線②の「痛念前女、故不録之」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　死んだ娘の物を勝手に使っては申し訳ないと思い、使っていないのです
2　死んだ娘を悲しませたことが悔やまれるために、残していないのです
3　死んだ娘のことを思い出すのがとてもつらいので、使っていないのです
4　死んだ娘のことを悔やんでもしかたがないので、残していないのです
5　死んだ娘に手を傷つけられたことが許せないので、使っていないのです
6　死んだ娘のつらい気持ちを思うといたたまれず、残していないのです

問三　傍線③の「可更覓数箇刀子、合置一処、令女自択」の書き下し文として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　更に数箇の刀子の、合せて一処に置き、女をして自ら択(えら)ばしむるを覓(もと)むべし
2　更に数箇の刀子を覓むべくんば、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしめよ
3　更に数箇の刀子を、合せて一処に置くを覓め、女をして自ら択ばしむべし
4　更に覓むべき数箇の刀子を、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしめよ
5　更に数箇の刀子を覓め、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしむべし
6　更に数箇の刀子を覓め、合せて一処に置くべくんば、女をして自ら択ばしめよ

問四　傍線④に「知前女審其先身」とあるが、その理由として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　死んだ娘が、多くの小刀の中から自分にとって最も使いやすい小刀を選んだから。
2　死んだ娘ととてもよく似た口ぶりで、選んだ小刀が自分の物だと言い張ったから。
3　死んだ娘と同じ年令になった時に、母の使う小刀に興味を示すようになったから。
4　死んだ娘と顔がそっくりなうえに、小刀で遊ぶというところもよく似ていたから。
5　死んだ娘がかつてそうしたように、小刀を母親から無理に奪い取ろうとしたから。
6　死んだ娘の弄んだ小刀を知るはずがないのに、多くの小刀の中から見分けたから。

復習問題　第八講

①「隋(ずい)ノ田(でん)・楊(やう)与(二)鄭(てい)法(はふ)士(し)(一)倶(ニ)以(テ)(レ)能(クスルヲ)(レ)画(ヲ)名(アリ)。」の傍線部の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

注　田・楊・鄭法士…隋代の画家。

ア　あづかりて

イ　より

ウ　くみして

エ　と

オ　あたへて

②「二三子不如妾知之也」の解釈として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　数人の門人は、誄の書き方を私よりよく知っています。

イ　夫のことは、私の方があなたたちよりよく知っています。

ウ　数人の門人は、徳について、私と同様よくわかっていません。

③「易(カフレバ)(レ)地(ヲ) [a] 皆然(リ)。」の空欄aに入れる最適な語を、次の中から選べ。

ア　而　　イ　当　　ウ　則　　エ　於

第九講　実践練習(2)

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、出題の都合上、返り点・送り仮名を省略した部分があります。

漢董永、*千乗人。少*偏孤、与父居。肆力田畝、*鹿車載自随。父亡、無以葬、乃自売為奴、以供喪事。主人知其賢、与銭一万、遣之。永行三年喪畢、(1)欲還主人、供其奴職。道逢一婦人。曰、「願為子妻。」遂与之倶。主人謂永曰、「以銭与君矣。」永曰、「蒙君之恵、父喪*収蔵。永雖小人、(2)必欲服勤致力、以報厚徳。」主曰、「婦人何能。」永曰、「能織。」主曰、「必爾者、但(3)令君婦為我織縑百*疋。」於是永妻為主人家織、十日而畢。女出門、謂永曰、「我、天之織女也。縁君(4)至孝、天帝令我助君償債耳。」語畢、淩空而去、不知所在。

（『捜神記』による）

＊千乗―地名。
＊偏孤―片親のみ（この場合は母親がいないこと）。
＊鹿車―小さい車。
＊収蔵―ここでは、埋葬が完了するの意。
＊疋―織物を数える単位。

問一　傍線部（１）「欲還主人、供其奴職」を、すべて平仮名を用いて読み下しなさい。

問二　傍線部（２）は「勤めに服し力を致し、以て厚徳に報いんと欲すと」と読みます。これに従って返り点を付けなさい。

欲服勤致力、以報厚徳。

問三　傍線部（３）「令君婦為我織縑百疋」を現代語訳しなさい。

問四　傍線部（４）「至孝」の具体的内容を、本文に即して説明しなさい。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合で返り点・送りがなを省いた部分がある。

衛ノ霊公之時、蘧(きよ)伯(はく)玉(ぎよく)賢ナルモ而不レ用ヒラレ、迷(び)子(し)瑕(か)不肖ナルモ而任ズレ事ニ。史(し)鰌(しう)(a)患之、(1)数言フモ二蘧伯玉ノ賢ヲ一而(b)不レ聴。病ミテ(c)且死、(2)謂二其ノ子ニ一曰ク、我即シ死セバ、治メヨ二喪ヲ於北堂ニ一。吾生キテ(x)不能進蘧伯玉而退迷子瑕。是レ不ル能ハ正スレ君ヲ者、死シテ不スルモ当ニ成スレ礼ヲ。而置二屍(しかばね)ヲ於北堂ニ一、於テレ我ニ足レリ矣。霊公往キテ弔(とむら)ヒ、問フ二其ノ(y)故ヲ一。其ノ子以テ二父ノ(z)言ヲ一(d)聞。霊公造然トシテ失ヒレ容ヲ曰ク、吾失ヘリ矣。(e)立召シテ二蘧伯玉ヲ一而貴ビレ之ヲ、召シテ二迷子瑕ヲ一而退ケ、徙(うつ)シ二喪ヲ於堂ニ一、成シテレ礼ヲ而後ニ去ル。衛国以テ治マルハ、史鰌之力也。(3)夫生キテハ進メテレ賢ヲ而退ケ二不肖ヲ一、死シテ且未ダレ止マ、又以テレ[I]ヲ諫(いさ)ム、可シレ謂フ二忠ト不ト一レ衰ヘ矣。

（『大戴礼記』）

（注）
○衛霊公…人名。
○蘧伯玉…人名。
○迷子瑕…人名。
○不肖…能力が劣る。
○史鰌…人名。
○治喪於北堂…北堂で葬儀を行う異例の方法で、死者に罪があることを示す。
○成礼…礼にかなった立派な葬儀を行う。
○造然失容…驚いて顔色を変える。
○諫…忠告する。

問一　波線部⑴〜⑶の送りがなを含めた読み方として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

⑴　数
ア　ますます　イ　しばしば　ウ　いよいよ
エ　たまたま　オ　こもごも

⑵　謂
ア　こたへて　イ　いひて　ウ　およびて
エ　おいて　オ　もとめて

⑶　夫
ア　あに　イ　けだし　ウ　まことに
エ　ただ　オ　それ

問二　傍線部(a)・(b)・(d)・(e)の意味として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

(a)　患
ア　思い切って　イ　よく考えて　ウ　憂慮して
エ　災害に遭って　オ　病気になって

(b)　不聴
ア　許可してもらえなかった　イ　よく聞き取れなかった　ウ　命令しなかった
エ　深くは知らなかった　オ　用意しなかった

(d)　聞
ア　評判が高かった　イ　申し上げた　ウ　聞きつけて来た
エ　望みを述べた　オ　立ち去っていった

(e)　立

ア　すぐさま　　イ　即位して　　ウ　しっかりして
エ　起立させて　　オ　叱りつけて

問三　傍線部(c)の　A　読み方と　B　解釈として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

A　読み方

ア　まさにしせんとし
イ　まさにしすべくして
ウ　よろしくしすべくして
エ　すべからくしすべくして
オ　なんぞしせんとし

B　解釈

ア　少しの間、死んだようになって
イ　死んだ方がましだと思って
ウ　今や死にそうになって
エ　必ず殺されると思って
オ　それでも生きたいと望んで

問四　二重傍線部(x)につける　A　返り点と　B　解釈として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

A　返り点

ア　不レ能レ進二蘧伯玉一而退二迷子瑕一

イ　不レ能レ進三蘧伯玉而退二迷子瑕一

ウ　不レ能レ進蘧伯玉而退二迷子瑕一

エ　不レ能下進二蘧伯玉一而退中迷子瑕上

オ　不レ能下進二蘧伯玉而退一迷子瑕上

B　解釈

ア　蘧伯玉を高位に進められなかったし、迷子瑕を退けることもできなかった。

イ　蘧伯玉を推薦することはできたが、迷子瑕は退任させられなかった。

ウ　蘧伯玉を前進させることはできなかったが、迷子瑕を追放できた。

エ　蘧伯玉を有能な人材とは思わなかったし、迷子瑕も辞めさせるほどではなかった。

オ　蘧伯玉を進ませてはみたが、迷子瑕を帰らせることはできなかった。

問五　空欄Ｉに入る語として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　病　　イ　子　　ウ　屍　　エ　国　　オ　君

問六　本文の内容と合致するものを、次の中から二つ選べ。

ア　霊公は、史鰌が自分の死までも利用して、君主である自分を戒めようとした行動によって、人事の非を覚った。
イ　蘧伯玉は、霊公に対して何度も進言し、息子までも使って訴えたが、結局二人とも追放された。
ウ　史鰌は、君主を正せなかった者は、まともな葬儀を行う資格はないと考え、自分の葬儀を異例な体裁で行わせた。
エ　蘧伯玉の息子は、父が無念の死を遂げたことを、葬式を行わないことで広く衛国の民衆に知らせようとした。
オ　迷子瑕は、出世を競っていた史鰌が亡くなって、その恨みを晴らすために葬儀を行えないよう、霊公に進言した。
カ　蘧伯玉と迷子瑕は、史鰌の思い切った奇策によって、そろって衛国を支える地位に就くことができた。
キ　史鰌の突然の死によって、その息子がいかに親不孝であったかが、霊公の目の前で暴かれることになった。

問七　二重傍線部(y)で史鰌が死体を北堂に置かせた理由として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　賢而不用　イ　不肖而任事　ウ　病且死　エ　不能正君　オ　霊公往弔

問八　二重傍線部(z)「父言」の終わりはどこか。最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　治喪於北堂　イ　退迷子瑕　ウ　不当成礼　エ　於我足矣　オ　問其故

三　次の文章は『後漢書』「陳寔（ちんしょく）伝」の一節である。本文と語釈をよく読んで、以下の各問に答えなさい。なお、設問の都合上、返り点や送り仮名を省いた箇所がある。

時ニ歳荒ニシテ民倹（まづ）シ。有下盗ノ夜入二リテ其ノ室一ニ、止中ドマル於梁（はり）ノ上上ニ。寔陰（ひそカ）ニ見テ乃チ起チ、自ラ整払シテ呼ビ二命（まねキ）子孫ヲ一、正シテレ色ヲ訓（をしへテ）レ之ニ曰ク、「夫レ人不レ可レ不二自ラ勉一。不善之人、未ダ二必ズシモ本ヨリ悪ナラ一。習ヒテ以テ性ト成リ、①遂ニ至ル二於此ニ一。梁上ノ君子者是レナリ矣。」盗大イニ驚キ、自ラ投ジテ二於地ニ一、稽（けい）顙（そう）シテ帰スレ罪ヲ。寔徐ロニ譬（さとシテ）レ之ヲ曰ク、「視ルニ二君ノ状貌ヲ一不レ似二悪人ニ一、宜シク二深ク剋（かチ）レ己レニ反ルレ善ニ一。然レドモ此レハ当ニシレ由ル二貧困ニ一。」②令ムレ遺（おくラ）二絹二匹ヲ一。自リレ是レ一県無シ二（　③　）盗窃スル一。

【語釈】
○（陳）寔＝後漢の人。その高潔な行いは人民の模範となった。　○整払＝身なりを整える。　○子孫＝子と孫。
○性成＝（その人の）性質になる。　○稽顙＝ぬかずく。　○帰罪＝自分の罪を認める。　○匹＝反物を数える単位。

問一　傍線部①「遂ニ至ル二於此ニ一」はどのようなことを意味するか。指示代名詞の指す内容が分かるように説明しなさい。

問二　傍線部②「令ムレ遺おくラ二絹二匹ヲ一」ということがなされたのは何故か、理由を説明しなさい。

問三　（　③　）に補うのに適当な語を次の中から選べ。

a 復　b 不　c 故　d 勉　e 常

問四　前の話から「梁上の君子」という成語が生まれたが、この成語の意味を表わす言葉を文中から選んで書け。

復習問題　第九講

① 「令子犯罪、なほ妾に在り」の傍線部の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　子に罪を犯さしめる
イ　子に罪を犯さしめんとす
ウ　子をして罪を犯さしむる
エ　子に令して罪を犯さんとす

② 「夫以二無知之禽獣一、猶且変レ勇為レ怯、況人之霊」の趣旨として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　禽獣は無知なものだが、霊長類である人間ならば、なおさら勇敢さが変じて卑怯になるなどということはないと夫は言ったのである。
イ　そもそも、知恵のない禽獣でさえ、勇猛だったものが臆病になることがあるのだから、ましてや知恵をもつ人間ならなおさらである。
ウ　夫と知恵のない禽獣とを比べるということは、勇敢と卑怯とを比べるようなもので、霊妙な人間というものがわかっていないのである。
エ　あの無知の禽獣ですら、しばらくは臆病から勇猛へと性格が変わったのだから、人の霊魂も少しの間なら変化することができるのである。
オ　それゆえ、士人は無知の禽獣の性格が勇猛でなくなっても大切にしたのだから、優れた人間ならなおさら大切にするであろう。

③ 「吾将迎之」の書き下し文と解釈の組合せとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　吾、之を将迎せんと
　　私が彼を送迎するつもりだ、と。

イ　吾、将(ひき)ゐて之を迎へんと
　　私が彼を連れて出迎えよう、と。

ウ　吾、将に之を迎へんとすと
　　私が彼を迎えるつもりだ、と。

④ 「自レ外視レバ之ヲ、六箇悉ク見ユ。」の傍線部と同じ用法のものはどれか。次の中から最も適切なものを選べ（設問の関係で「自」には、返り点・送り仮名を付していない）。

ア　吾自衛帰ル レ魯ニ。

イ　非トシ レ人ヲ自是トス。

ウ　君自行ヘ レ之ヲ。

第十講　実践練習(3)

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

子路為蒲宰。為水備与其民修溝洫。以民之労煩苦也、人与之一箪食一壺漿。①孔子聞之、使子貢止之。②子路忿然不説、往見孔子曰、由也、③以暴雨将至、恐有水災。故与民修溝洫、以備之。而民多乏餓者。是以箪食壺漿而与之。夫子使賜止之、是夫子止由之行仁也。夫子以仁教、而禁其行、由不受也。孔子曰、汝以民為餓也、④何不白於君発倉廩、以賑之。而私以爾食饋之、是汝明君之無恵、而見己之徳美。汝速已、則可。不、則汝之見罪必矣。

（『孔子家語』より）

【注】
＊子路　孔子の門人。名は由。
＊蒲宰　衛の国の蒲の長官。蒲は町の名。
＊溝洫　田畑の間に掘った溝。
＊一簞食　竹で作った器に盛った飯。
＊一壺漿　壺に入れた飲み物。
＊子貢　孔子の門人。名は賜。
＊賑　救う。

問一　波線部Ａ「是以」Ｂ「夫子」Ｃ「私」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで記せ。

Ａ＝　　　　Ｂ＝　　　　Ｃ＝

問二　二重傍線部Ｘ～Ｚの「見」と同じ意味で用いられている「見」を含む文を次の中からそれぞれ一つ選べ。

ア　信而見レ疑、忠而被レ謗。
イ　心不レ在レ焉、視而不レ見、聴而不レ聞。
ウ　未二嘗見レ歯而笑一也。
エ　彗星見二于東方一。
オ　孟子見二梁恵王一。

Ｘ＝　　　　Ｙ＝　　　　Ｚ＝

問三　傍線部①「孔子聞之、使子貢止之」とあるが、孔子がこのような処置をした理由として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　溝洫の管理は専門家集団に任せるべきであるから。
イ　子路が主君によって処罰されることが予想されたから。
ウ　安易に民に恩恵を施すと、民の自立する心が育たないから。
エ　民と一緒に食事をすることは礼の規定に違反するから。
オ　間もなく激しい雨が降ってくることが予想され、危険だから。

問四　傍線部②「子路忿然不説」とあるが、子路はなぜそのような感情をいだいたのか。その理由を、次の形式に従って記せ。

子路は［　　　　　　　　］と考えたから。

問五　傍線部③「以暴雨将至」の書き下し文を記せ。

問六　傍線部④「何不白於君発倉廩、以賑之」の意味として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　民を救済するためには、主君の慈愛に何とかしてすがって穀物倉を開く必要がある。
イ　穀物倉を開いて民を救済するため、どうやって主君に身の潔白を示せばよいのか。
ウ　なぜ主君のもとに役人を派遣して穀物倉を開けてもらい、民を救済しないのか。
エ　民を救済するためには、どこの穀物倉を開くか主君に建言する必要がある。
オ　どうして主君に事情を申し上げて穀物倉を開き、民を救済しないのか。

二　次の文章を読み、あとの設問に答えよ。ただし、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

季文子(注1)ⓐ相宣成(注2)、無衣帛之妾、無食粟(注3)之馬。仲孫它(注4)諫曰、「子為魯上卿、ⓑ相二君矣。妾不衣帛、馬不食粟。人其以子ⓒ為愛、且不華国乎。」文子曰、「吾ⓓ亦願之。然吾観国人、其父兄之食粗而衣悪者ⓔ猶多矣。吾是以不敢。人之父兄食粗衣悪、而我美妾与馬、ⓕ無乃非相人者乎。且吾ⓖ聞以徳栄為国華、不聞以妾与馬。」文子以告孟献子(注5)、献子囚ⓗ之七日。自是子服(注6)之妾、衣不過七升(注7)之布、馬餼(注8)不過稂(注9)莠。文子聞之、曰、「ⓘ過而能改者、民之上也。」ⓙ使為上大夫。

（『国語』）

（注）
1　季文子――魯の国の人。
2　宣成――宣公・成公。
3　粟――穀物。
4　仲孫它――魯の国の人。
5　孟献子――仲孫它の父。
6　子服――仲孫它のこと。
7　七升之布――粗末な布。
8　餼――まぐさ。馬の飼料。
9　稂莠――いぬあわと、はぐさ。ともに雑草。

問一　傍線部ⓐⓑ「相」に共通する意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　面会する　　2　宰相となる　　3　相談する　　4　愛想がよい　　5　諫言する

問二　傍線部ⓒ「子」、ⓗ「之」はそれぞれ誰を指すか。最も適当なものを、次の組合せの中から一つ選べ。

1　ⓒ　宣　成　　ⓗ　国　人
2　ⓒ　子　服　　ⓗ　仲孫它
3　ⓒ　季文子　　ⓗ　仲孫它
4　ⓒ　季文子　　ⓗ　孟献子
5　ⓒ　孟献子　　ⓗ　宣　成

問三　傍線部ⓓ「亦」、ⓔ「猶」の読み方を、送り仮名も含め、平仮名で記せ（現代仮名遣いでもよい）。

ⓓ＝　　　　ⓔ＝

問四　傍線部ⓕ「無乃非相人者乎」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　無は乃ち相ひ人たる者に非ざらんや
2　無は乃ち人に相たる者に非ずや
3　乃ち相ひ人たる者に非ざる無きなりや
4　乃ち人に相たる者に非ざる無からんや
5　人と相せざる者は乃ち非ざる無からんや

問五　傍線部ⓖ「聞以徳栄為国華」は、「徳栄を以て国華と為すを聞くも」と読む。これに従って返り点をつけよ（送り仮名は不要）。

聞　以　徳　栄　為　国　華

問六　傍線部ⓘ「過」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　すごして　　2　とおりて　　3　すぎて
4　よぎりて　　5　あやまちて

問七　傍線部ⓙ「使レ為二上大夫一」について、上大夫になったのはだれか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　仲孫它　　2　孟献子　　3　季文子　　4　宣成　　5　上卿

問八　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

1　魯の国は繁栄して、人々は豪華な食事をしていた。
2　季文子は質素な食事をしたが、馬のえさは粟だった。
3　季文子は「馬こそ国の華である」と、仲孫它に答えた。
4　仲孫它は季文子に進言したが、後に它自身が改心した。
5　仲孫它は自分の意見に固執し、季文子を追放した。

復習問題　第十講

①　「是ヲ以テ如クレ是（かくノ）其レ急ナリ」の現代語訳として、最適なものを次の中から選べ。

ア　こうして成果をあげるために実行を急いだのである。
イ　従って顔子も同じことをしようとして馳せ参じたのである。
ウ　このように自然の災害の予知能力を高める努力をしたのである。
エ　それ故にこのように民を救うことを急務として力を注いだのである。
オ　これをもとにして政治家がいかなる仕事をすべきか急ぎ点検したのである。

②　「於レ是、未レ至二単父一」の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　これによりいまだ単父に至らざるに、
イ　これにおいていまだ単父に至らざるに、
ウ　ここにおいていまだ単父に至らざるに、

③　「以傲世見疾」のひらがなのみの書き下し文として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　よにおごるをもってにくまる。
イ　もってよをかろんじてやまいをみる。
ウ　ほこるをもってよにあらわるることはやし。
エ　もってよのにくむをみるをかろんず。

模範解答

【第一講】

二　②〔病気の子が薬を飲む。〕
③〔私は帝にお願いする。〕
④〔不死の薬を荊王に献上する。〕
⑤〔子路は人に竹で作った器に盛った飯を与えた。〕
〔例〕〔臣（は）忠信を以て罪を上に得る者なり。〕
〔私は忠信でありながら罪を上位の人に得るものである。〕

〔模範解答〕

〔例題一〕⑩㆚⑧㆘④㆓①③㆒㆑②⑦㆗⑤⑥㆖⑨㆙。
〔例題二〕⑦㆑⑥㆔①②⑤㆓③④㆒
〔例題三〕②
〔例題四〕a　や　b　なり

問一　臣不㆓敢以㆑死為㆒㆑戯。
問二　遂以嫁㆓得㆑詩人㆒。
問三　欲㆔服㆑勤致㆑力、以報㆓厚徳㆒。
問四　以(テ)㆓寛簡不(ルヲ)㆒㆑擾(サ)為(ス)㆑意(ト)。
問五　③
問六　吾已作㆓薬酒㆒待㆑之矣。
問七　使(ム)㆓旬人(ヲシテ)献(ゼ)㆒㆑麦(ヲ)。
問八　雪珠如(ク)㆑豆(ノ)打(ツ)㆓茅茨(ヲ)㆒。
問九　ウ

【第二講】

一　⑥〔須らく学ぶべし。〕（学ばなければならない。）

二　①〔王人をして之を求めしむ。〕（王は人にこれを求めさせる。）

〔模範解答〕

問一　妾は宜しく身を以て其の棺槨に薦め、其の幼孤を守り養ふべし。

問二　禹 思(下)天 下 有(二)溺 者(一)、由(中)己 溺(上)之 也。

問三　ウ

問四　Ａ　ア　Ｂ　ウ

問五　１

問六　Ａ　イ　Ｂ　エ

問七　当に子の為に酒を沽ふべし

問八　まさにせいにゆかんとし、

問九　当に悪願を発すべからず

問十　人をして中射の士を殺さしむ

問十一　妻妾をして薬酒を挙げ（て）之を進ぜしむ

問十二　使(二)相 聘(レ)焉。

問十三　令(下)孺 子 懐(レ)銭 挈(二)壺 甕(一)而 往 酤(上)。

問十四　こうをしてうまをもってひとをころさしむ

問十五　なんじ〔ぢ〕をしてひとのてにしせざらしむ

【第三講】

一
①〔用ゐらる〕／〔従はる〕
②〔唐廷の文士の推奨する所と為る。〕（唐廷の文士に推奨される。）

二
A　③〔人に非ざるなり。〕（人ではないのである。）
B　①〔出づべからず。〕（出ることができない。）
②〔君を正す能はず。〕（君主を正すことができない。）
③〔謂ふを得ず。〕（言うことができない。）
C　⑤〔察せざるべからざるなり。〕（察しないわけにはいかないのである。）
⑥〔敢へて尽さずんばあらず。〕（尽くさないわけにはいかない。）
E　③〔星勝げて数ふべからず。〕
〔星数ふに勝ふべからず。〕
④〔貴と無く賤と無く、…〕（身分の高い者と低い者の区別なく、…）
〔人として情け無きは無し。〕（人はみんな思いやりがある。）
⑤〔人として学ばざるは無し。〕（人なら必ず学ぶ。）

〔模範解答〕

問一　②
問二　タモタルル
問三　④
問四　ウ
問五　イ

問六　ハ

問七　得ることができないのである

問八　つい〔ひ〕にかえ〔へ〕る（こと）あたわ〔は〕ず

問九　君と難に陥る（こと）能わ〔は〕ず

問十　石荊州の人柄を今まで一度もあわれまなかったことはないのである
（石荊州の人柄をいつも必ずあわれむのである）

問十一　観ざる者莫し

問十二　ひと（は）みず〔づ〕からつとめざるべからず

問十三　c

問十四　エ

問十五　いまだことごとくはりょうせず

問十六　二度とは樹木の株を分割しない

【第四講】

一　Ａ　①〔何ぞ謂はざる。〕（どうして言わないのか。）

③〔何為れぞ我を去るや。〕

Ｂ　⑤〔我を若何せん。〕

二　②〔国焉くんぞ亡ぶる無きを得んや。〕（どうして国が亡びないことがあろうか、いや、亡びる。）

④〔敢へて知らざらんや。〕（どうして知らないことがあろうか、いや、知っている。）

⑤〔何の難きことか之れ有らん。〕（何の難しいことがあろうか、いや、何も難しくない。）

〔模範解答〕

問一　③

問二　エ

問三　君王はどうして罪人の為に車から降りて泣くほど悲しんでいるのですか

問四　〈読み〉　あに

〈口語訳〉　どうして昔の鶯や花であろうか、いや、違う

問五　あんしいず〔づ〕くんぞれいをしらん

問六　どうして忠信を理由に罪を得る者がいるだろうか、いや、いない

問七　エ

問八　イ

【第五講】

一　②〔豈に学ばざらんや。〕（どうして学ばないだろうか、いや、学ぶ。）
〔豈に遠からずや。〕（なんと遠いではないか。）
③〔何ぞ其れ浅きや。〕

二　②〔臣を釈すに如かず。〕（私を許した方がよい。）
③〔良医に如くは莫し。〕（良医が一番よい。）

四　①〔惟だ江上の丈人のみ。〕

〔模範解答〕

問一　イ

問二　〈書き下し文〉　何ぞ其れ仁と明との周からざる無きや
〈口語訳〉　なんと仁愛と明察が広くゆきわたっているではないか

問三　ひんいにしかず

問四　ア

問五　a　もし
b　ぞうぶつといえどもあたわざるところあり

問六　ただ

問七　やすんずるあたわ〔は〕ざらんのみ

問八　唯だ瓶と漆函とのみ

問九　a

問十　豈に独り我が父のみならんや

【第六講】

二 （～聞かせて下さい。）
（～察して下さい。）

三 ③〔渡らんと欲す。〕

〔模範解答〕

問一 いわ〔は〕んやそれようにてきするものをや

問二 ⑤

問三 まして母を捨てて公の軍隊の為に仕えることができようか、いや、なおさらできない

問四 どうか私に三言だけ言わせてください

問五 すなわちひんいにしかず

問六 （a）② （b）①

★補足

一 「複数の句法に使用される漢字」

① 於・于・乎（文中）

(1) **置き字**

(2) 「**受身**」 V二於N一　＊N＝Vの動作主　（NにVされる）

(3) 「**比較**」 A二於N一　（Nより（も）A）

② 敢

(1) **敢**（あヘテ）＝（すすんで・わざわざ・おもいきって）

(2) **安**（いづくンゾ）**敢**（あヘテ）〜ン（ヤ）＝（どうしてわざわざ〜しようか、いや、決して〜ない）

(3) **不敢〜**＝〔敢へて〜ず〕／（決して〜ない）

(4) **敢不〜乎。**＝〔敢へて〜ざらんや〕／（どうして〜しないことがあろうか、いや、〜する）

③ **若・如**　＊書き下し文「如」＝「若」同様。

(1) **文頭**にあって**下から返らない**とき「　**仮定**　」／（もし～ならば）

(2) **下から返る**とき「**比況**の助動詞」ごとシ／（～のようだ・～と同じだ）

(3) **不レ如**／**弗レ若** ～ニ＝〔～に如かず〕／（～の方がよい・～に及ばない）

莫レ如／**無レ若** ～ニ＝〔～に如くは莫〔無〕し〕／（～が一番よい・～にこしたことはない）

(4)「**疑問**」

〈文頭〉如何・若何～＝〔如何ぞ～〕／（どうして～か）

〈文末〉如何・若何。＝〔如何（せん）〕／（～はどうするか）【　方法　】

〈文末〉何如・何若。＝〔何如〕／（～はどのようであるか）【　状態・結果　】

(5)「**反語**」

如何・若何

〈文頭〉〔如何ぞ～ん〕／（どうして～だろうか、いや、～ない）

〈文末〉〔～（は）如何せん〕／（～はどうしようもない）

④ **能**

(1) **能**＝〔能(よ)ク〕／（～できる）

＊ **善**(よク)＝～することが上手だ

銭(せん)明(めい)経(けい)善(レ)詩。　〔銭明経詩を善くす。〕（銭明経は詩を作ることが上手だ。）

(2) **不(レ)能**＝〔能はず〕／（～できない）

(3) **安**(いづクンゾ)**能**～(ン(ヤ))・**豈**(あニ)**能**～(ン(ヤ))　／（どうして～できるだろうか、いや、～できない）

【第七講】

〔模範解答〕

〔例題一〕　ウ

〔例題二〕　エ

二

問一　五言律詩　**問二**　眠・辺・綿・縁　**問三**　一組

三

問一　七言絶句　**問二**　エ

五

問一　イ　**問二**　ウ　**問三**　エ　**問四**　ウ　**問五**　エ　**問六**　オ

〔現代語訳〕

二

戦場で国境の守備につく兵士よ、寒く辛い中、どのように寝ているのですか。軍衣は私の手作りですが、誰の元に届くのか知ることができましょうか。思いを込めて糸をたくさん使って縫い、気持ちを込めてさらに多くの綿を入れました。現世ではすでに別れて過ぎてしまいましたが、来世で夫婦として縁を結びましょう。

三

私は揚子江のほとりに来て望見すれば、ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。我が身を天柱の先端に置いて、太陽や月が人間界を巡っていくのを上から逆に眺めてみたい。

五

十月に鷹は籠を出て、草は枯れて雉や兎は肥えふとる。
鷹は腕につける革具から下りて猟師の指示に従い、百回投げ放って一度も失敗することはない。
鷹の翼は風のように速く、爪は錐のように鋭い。
翼や爪は、もともと鷹のために付けられているものなのに、今は人に利用されている。
誰が鷹にそのようにさせる（人のために狩りをする）ことができるのか、じつはとてもわかりやすい術がある。
鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用し、飢えている時や満腹の時に制御するのである。
長く満腹にさせてはいけないし、長く飢えさせてもいけない。
飢えると鷹は力が足りず、満腹になれば人に反抗して飛び去ってしまう。
飢えを利用して襲いかからせ、まだ満腹になる前に必ず繋がなければならない。
こういう理由で爪と翼によって手柄を立てるのだが、人はいながらにしてこの手柄を自分のものにする。
優れた君主が優れた臣下を操る術も、やはりこのようである。
卑しいものが語った話も捨てるべきではない、私はこの話を猟師に聞いた。

【第八講】

〈模範解答〉

一

問一　A と　C み　E また　問二　4　問三　視二其所一レ使　問四　3

二

問一　①　問二　③　問三　②

問四　（1）不三敢脱二羊裘一

（2）普段と違う豪華な服を着ると、偽ることになるので、高祖には偽りのない姿で謁見し、誠実なままでいたかったから。

三

問一　いず〔づ〕くに　／　いず〔づ〕こに　問二　3　問三　5　問四　6

〈現代語訳〉

一

孔子が言うことには、「子夏は好んで自分より優れた者と居り、子貢は好んで自分より劣った者といる。ある子供のことをよくわからなければその父親を見て、ある人のことがよくわからなければその友人を見て、ある君主のことがよくわからなければその家来を見て、ある土地がよくわからなければそこに生えている草木を見る。だから『善人といるのは、霊芝と蘭のある部屋に入るようなものだ。長い時間そこにいるとその香りがわからなくなってしまう。つまり善人の影響を受けて善人になったのだ。悪人と一緒にいるのは、魚の干物の店に入るようなものだ。長い時間そこにいると匂いがわからなくなってしまう。これもまた、悪人の影響を受けてしまうのである』と言われている」と。

二

婁敬は話は遡るが虞将軍を頼りにして高祖にお目通りしようとしたときに、粗末な毛織物の上着を着て、羊の毛皮でつくった衣類を着ていた。虞将軍は自分が着ていた服を脱いで婁敬に着せようとした。婁敬が言うことには、「私はもとから絹織物を着ていれば、絹織物を着てお目通りします。私はもとから粗末な衣類を着ているので、粗末な衣類を着てお目通りします。仮に粗末な衣類を捨てて、華やかな衣類を借りたならば、これは普段を偽ることになります」と。（婁敬は）決して羊の毛皮を脱ごうとせず、粗末な衣類を着たまま高祖に謁見した。

三

晋の向靖、字は奉仁、河内の人である。呉興郡にいた時に幼い娘を亡くした。娘は病気になりはじめたころ、小刀を弄んでいて、母親が奪い取ろうとしたが渡さず、母親の手を傷つけてしまった。（娘が）亡くなってから一年後、母はまた一人の女の子を生んだ。その女の子が四歳の時に、母親に言うことには「あの時の小刀はどこにあるのですか」と。母親が言うことには「無いよ」と。女の子が言うことには、「昔小刀を奪い合って、それでお母さんの手を傷つけてしまいました。どうしてないのですか」と。母親はとても驚き不思議に思いことこまかに向靖に告げた。向靖が言うには、「その時の小刀はまだあるのかないのか」と。母が言うには、「死んだ娘のことを思い出すのがとてもつらいので、使っていないのです」と。向靖が言うことには、「さらにもう何個か小刀を求めて、合わせて同じところに置き、娘自身に選ばせなさい」と。娘が（小刀を）見てとても喜び、すぐに以前の小刀を取って言うことには、「これが私のものです」と。両親・家族がそこでやっと以前の娘が本当にこの娘の前世であることを理解した。

【第九講】

〔模範解答〕

一

問一　しゅじんにかえ〔へ〕すに、そのどしょくをきょうせんとほっす

問二　欲㆔服㆑勤致㆑力、以報㆓厚徳㆒。

問三　お前の妻に私の為に絹の織物を百疋織らせよ

問四　父親が生きているときには大切にして、父親が亡くなれば自分を売って奴隷となり、そのお金で葬儀をして、主人からお金をもらうと三年間喪に服したこと。

二

問一　(1)イ　(2)イ　(3)オ　**問二**　(a)ウ　(b)ア　(d)イ　(e)ア

問三　A ア　B ウ　**問四**　A エ　B ア

問五　ウ　**問六**　ア・ウ　**問七**　エ　**問八**　エ

三

問一　環境によって結果として悪人となってしまうこと。

問二　本来は悪人ではないのに、貧困の為に盗人にならざるをえなかった盗人に善に戻ってほしかったから。

問三　a

問四　盗

〔現代語訳〕

一

漢の董永は、千乗の人である。若くして（母親がいなくなり）片親のみとなり、父親といた。力を畑仕事に尽くして、（父親を）小さい車に乗せて自分はその後についてしたがった。父親が亡くなると、葬る（お金が）無かったので、そこで自分を売って奴隷となり、それで得たお金で葬儀を行った。主人は董永の賢さを知り、銭一万を与えて、送り出した。董永は三年間の喪に服しそれが終わると、主人にお金を返すのに、奴隷の仕事で返そうと思っていた。道で一人の女性に逢った。（その女性が）言うことには、「どうかあなたの妻にならせてください」と。そこでその結果（董永は）この女性と一緒になった。主人が董永に言ったことには、「お金はお前にあげたのだ」と。董永は「ご主人様の恩恵をいただき、父の埋葬も完了しました。私はつまらない人間ですが、必ず仕事に力を尽くし、厚い御恩に報いたいです」と言った。主人が言うことには、「（お前の）妻は何ができるのか」と。董永は「織物ができる」と言った。主人が言うことには、「必ずそれならば、ただお前の妻に私の為に絹の織物を百疋織らせよ」と。そこで董永の妻は主人の家の為に織物をし、十日で終わった。女が門を出て、董永に言うことには、「私は天の織女である。あなたがたいそう親孝行なので、天帝は私にあなたの負債を償うのを助けさせただけなのです」と。語り終わると、空に登って、どこにいるのかわからなくなってしまった。

二

衛の霊公の時、蘧伯玉が優れていたのに登用されず、迷子瑕は劣っているのに仕事についていた。史鰌はこれを憂慮して、しばしば蘧伯玉が優れていることを言ったが許可してもらえなかった。（史鰌が）病気になり今や死にそうになって、自分の子供に言うことには、「私がもし死んだならば、（死者に罪があることを示す）北堂で葬儀を行え。私は生きている時に蘧伯玉を（高位に）進められなかったし迷子瑕を退けることができなかった。これは君主を正すことができなかったことで、死んでも当然礼にかなった立派な葬儀をするべきではない。私の屍を北堂に置いたならば、私は満足だ」と。（史鰌が亡くなると）霊公は行って弔い、（北堂に屍を置いている）その理由を質問した。その子は父親の言葉を（霊公に）申し上げた。霊公は驚いて顔色を変えて言うことには、「私は過失をおかした」と。すぐさま蘧伯玉を召して彼を貴び、迷子瑕を召して退けて、（史鰌の）葬儀を行う場所を堂に移して、礼にかなった立派な葬儀を行いその後に去った。衛の国が治まっていた

のは、史鰌の力である。そもそも生きている時に賢者を進めて劣っている者を退け、死んでもまだ止めないで、またも屍で君主を諫める（ことは）、忠心衰えずと言うことができる。

三

時に凶作の年で人民が貧しかった。盗人が夜にその家〔＝陳寔の家〕に入って、梁の上にとどまっていた。陳寔はひそかに（盗人）を見てそこで起き上がって、自分で身なりを整えて子と孫を呼んで招いて、真面目な顔つきをして子と孫に教えて言うことには、「そもそも人間は自分で努力しないわけにはいかない。不善の人も、必ずしももとから悪人ではない。（悪い）習慣によって（その「悪」がその人の）性質になってしまい、その結果この状態〔＝悪〕に至るのである。梁の上にいる君子がこれである。」と。盗人はたいへん驚き自分から地上に降りて、ぬかずいて自分の罪を認めた。陳寔はゆっくり彼を諭して言うことには、「君の容姿容貌を見ると悪人には見えない、自分自身によくうち勝ち善に戻る方が良い。だがこれはきっと貧困によるものにちがいない」と。（家来に命じて）絹二匹を贈らせた。これ以来その県にふたたび盗みを働く者はいなくなった。

【第十講】

〔模範解答〕

一

問一　A　ここをもって　　B　ふうし　　C　ひそかに

問二　X　オ　　Y　ウ　　Z　ア

問三　イ

問四　孔子は普段、仁愛を行うように教えているのに、自分が仁愛を行おうとするのを止めるのは、矛盾していて納得がいかない

問五　暴雨の将に至らんとするを以（っ〔つ〕）て

問六　オ

二

問一　2

問二　3

問三　d　また　　e　なお〔ほ〕

問四　4

問五　聞㆘以㆓徳栄㆒為㆗国華㆖

問六　5

問七　1

問八　4

〔現代語訳〕

一

子路が蒲の長官となった。水害の備えの為に蒲の人民と田畑の間に掘った溝を修理した。人民が働いて疲れて苦しんでいるので、一人一人に竹で作った器に盛った飯と壺に入れた飲み物を与えた。孔子がこれを聞いて、子貢にこれを止めさせた。子路は怒って機嫌が悪くなり、孔子にお目通しをしに行って言うことには、「私は、暴雨が今にも来そうなので、水害があることを恐れています。だから人民と溝を修理して、これで暴雨に備えているのです。だが、人民に貧しく飢えている者が多いのです。だから器の飯と壺の飲み物を人民に与えているのです。先生は子貢にこれを止めさせたのは、先生が、私が仁愛を行うのを止めているのです。先生は仁愛を教えているのに、私が仁愛を行うのを禁じるのは、私は受け入れられません」と。孔子が言うことには、「お前が、人民が飢えていると思うのならば、どうして主君に事情を申し上げて穀物倉を開き、人民を救済しないのか。なのに、こっそりとお前の食物を人民に贈るのは、お前が主君が恵みがないことを明らかにして、自分の徳の美しさを示しているのだ。お前がすぐに止めれば、よい。そうしなければ、お前が処罰されるのは明らかだ」と。

二

季文子が宣公と成公の宰相であったが、絹を着た下女もおらず、穀物を食べる馬もいなかった。仲孫它が（季文子に）諫めて言うことには、「あなたは魯の上卿となって、二人の君主の宰相である。下女は絹を着ておらず、馬は穀物を食べていない。（一般）人はそもそもあなたが（お金を）惜しんでいると考え、さらに国を華やかにしていないのではないか」と。季文子が言うことには、「私もまたこれ〔国の繁栄〕を願っている。しかし私は国民を観ると、その父兄は粗末なものを食べ粗末な服を着ている者がやはり多い。私はだから決して（絹を着させたり穀物を馬にやったりなどの贅沢は）しないのである。国民は粗末なものを食べ粗末なものを着て、私は下女と馬を贅沢に扱うのは、それは国民のための宰相である者ではないのではないか。さらに私は徳と光栄は国の最高のものだと聞いたことはあるが、下女と馬が国の光栄であるとは聞いたことがない」と。季文子は孟献子に告げると、孟献子が仲孫它を捕えること七日間。それ以降、子服〔＝仲孫它〕の下女は、粗末な布で織ったものにすぎず、馬の飼料はいぬあわとはぐさ〔＝雑草〕にすぎない。季文子はこれを聞いて、言うことには、「過っても改めることができるものは、国民の上に立つ者である」と。（季文子は仲孫它を）上大夫に任命した。

復習問題解答解説

復習問題解答　第一講　基本事項の確認

〔解説〕

①・②に関しては、返り点のついている順番で読んでいった場合、読み方が同じになるものを選ぶしかない。

③　講義中に出題した問題。返り点どおりに読むと、選択肢イかオに絞れる。「移」が「移す」と訳しており動詞であることから、その下の「榻**於**戸外」は「榻」が**目的語**（〜ヲ）、戸外が**補語**（〜ニ・ト・ヨリ・ヨリモ）になる。よって、それぞれの送り仮名がきちんと対応しているイが正解。

④　こちらも講義中に出題した問題。「語」が動詞なので、その下の「夫人其実」は「夫人」が**補語**、「其実」が**目的語**。よって、正解はウ。

⑤　「也」の読み方の問題。**文中**の「也」は「**や**」と読むので、ウとエは削る。**文末**の「也」は、**上に疑問・反語**の文字が**ない**ので、この場合は「**なり**」である。よって、正解はア。

〔解答〕

①　エ　　②　エ　　③　イ　　④　ウ　　⑤　ア

復習問題解答　第二講　再読文字／使役形

〔解説〕

①に関しては、返り点のついている順番で読んでいった場合、読み方が同じになるものを選ぶしかない。再読文字の「未」に気をつけること。

②イは「つひニ」と読む副詞。

③訳から、「**当**」は再読文字として、「**まさに～べし**」と読むべきことがわかる。よって、正解はイ。

④「**将**」は再読文字で「**まさに～んとす**」と読む。よって、正解はエ。「将」は再読文字以外で他の読み方もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えよう。

⑤「**俾**」は**使役**の助動詞。よって、正解はア。

⑥訳から、「使」を使役の助動詞「しむ」と読むことがわかる。その下を見て、動詞を探すと「償」が動詞。よって、「使」と「償」の間にある「相」が**使役の対象**で、**送り仮名**は「**をして**」。よって、正解はイ。

〔解答〕

①イ　②イ　③イ　④エ　⑤ア　⑥イ

復習問題解答　第三講　受身形／否定形

〈解説〉

① 「**被**」は**受身**の助動詞「**る・らル**」。直前が「せ」で、**a段ではない**ので「**らる**」。選択肢は活用しているが、「らる」と読んでいるものは、エ「られ」のみ。よって、正解はエ。

② 「不能」の下に、動詞は「守」と「為」の二つがある。返り点通りに読むと**二つ目の動詞「為」を読んでから「不能」に返るため**、二つの動作が**両方**ともに「できない」ということ。よって、正解はウ。

③ 「無不」なので、「～（し）ないものはない」。よって、正解はエ。ちなみに「理」は重要単語で「道理」の意味。

④ 「不可不」なので、「～（し）ないわけにはいかない」。よって、正解はイ。

⑤ 「**復**」は「**また**」と読み「**ふたたび**」の意味。イかエに絞る。返り点通りに読むと、次に読むのは「天下～」となる。よって、正解はイ。

⑥ 「為人」は重要単語。「ひととなり」と読み、「人柄」の意味。

〈解答〉

① エ　② ウ　③ エ　④ イ　⑤ イ　⑥ オ

復習問題解答　第四講　疑問形　／　反語形

〔解説〕

① 「**孰**」は、「**たれカ**」か「**いづレカ**」と読む。よって、正解はウ。「**能**」の「**よク**」という読み方も大事。使役の助動詞「使」の直下の名詞「之」には「**ヲシテ**」という送り仮名をおくる。

② 「んや」は反語の句形。よって、正解はイ。

③ 「豈～哉」は反語の句形。よって、正解はウ。

④ 「不敢～」は「あへて～ず」で、「決して～ない」の意味。「敢不～」は「あへて～ざらんや」で、「どうして～しないだろうか、いや、する」の意味。返り点通りに読むと、ＡもＢも最初が「敢」なので、ａ・ｆ以外。その次に「ず」や「ざら」など、打消の読みが重複しているｂとｅも削除。そうすると語順より、Ａがｃで、Ｂがｄ。よって、正解はオ。

〔解答〕

①　ウ　　②　イ　　③　ウ　　④　オ

復習問題解答　第五講　詠嘆形／比較形／仮定形／限定形／累加形

〔解説〕

①「不若」は「しカず」と読み、比較の句法。「若」は複数の句法で使用される文字だが、「不・弗」とセットで使われていれば、まずは「～ニしカず」の「比較」から考えよう。よって、正解はエ。

②「苟」は「いやしクモ」と読み、「もし～ならば」の意味。よって、正解はイ。

③「雖」は「いえどモ」と読み、逆接を表す。古文とは違い、仮定・確定のどちらの意味もあるので、文脈判断が必要であるが、この場合は逆接の選択肢がイのみ。よって、正解はイ。

④「苟」は「もし～ならば」。よって、アかイに絞る。「自」はこの場合「みづから」と読み、「自分」の意味。したがって、「もし**私が**」となっているアが正解。

⑤「唯」は「たダ」と読み、限定の句法。「ただ」と読めるものはウ。

⑥「豈惟」は「豈ニ惟ダ（ニ）～ノミナランヤ」と読む。よって、正解はイ。

〔解答〕

①　エ　②　イ　③　イ　④　ア　⑤　ウ　⑥　イ

復習問題解答　第六講　抑揚形／願望形／その他

〔解説〕

①　「スラ尚ホ〜、況ンヤ〜ヲヤ」は「抑揚」の句形。よって、正解はエ。

②　（1）「いはんや」と読めるのはイ。

（2）「抑揚」は古文の「類推」と同じ。軽いものをあげて、重いものを推測させ、そうなるのが当然だというのを暗に示す表現意図がある。アは「困難な状況」にだけ限定しているので不可。正解はウ。

③　手紙文中で「あなた」を表す言葉は「足下」。よって、正解はエ。

④　「遂」は「つひニ」と読み、「その結果、結局」という意味。よって、正解はイ。

⑤　「素」は「もとヨリ」と読み、「平素から・以前から」の意味。よって、正解はウ。

⑥　「未幾」は「未ダ幾ナラズ」と読み、「まもなく」の意味。よって、正解はオ。

〔解答〕

①　エ　②　（1）イ　（2）ウ　③　エ　④　イ　⑤　ウ　⑥　オ

復習問題解答　第七講　漢詩／漢文読解法

〔解説〕

① **問1** 「復」は「また」と読んで、「ふたたび」の意味。よって、アとエは削る。**七言詩**のリズムは**2・2・3**なので、正解はイ。

問2 **律詩**は**3・4**句目と**5・6**句目のどちらかは**対句**。なので、可能性が高いそれらから確認すると、どちらも返り点の打ち方が同じで構成要素も同じ。よって、正解はウ。

② **押韻**の問題。**七言詩**なので、**初句**と**偶数句**の**最後の文字**「遺」＝i、「斯」＝shiと共通する母音「-i」となるものを選ぶ。アはyu。イはgo。ウはsa。エはgi。オはkyo。よって、正解はエ。

③ **問1** ②同様、七言詩なので、初句と偶数句の最後の文字が押韻する。よって、正解はエ。

問2 対句する③の読み「閤を閉ざして只だ聴く朝暮の鼓」と同じ構造にならなければいけない。④の最後の三文字「往来船」は「往来の船」になる。よって、ア、イ、ウのどれかに絞る。四文字目の「望」は、③の「聴く」より動詞の終止形となる。「閤**を**」の送り仮名より、ウ「楼**を**」を選んだ人もいるかもしれないが、「空より望めば」の読みと「只だ聴く」は同じとは言い難い。やはり「空しく望む」と「只だ聴く」が同じ構造と考えられる。したがって「楼**に**」ではあるが、アが正解。ちなみに、五・六句も対句である。

〔解答〕

① 問1　イ　　問2　ウ

② エ

③ 問1　エ　　問2　ア

復習問題解答　第八講

〔解説〕

① 「与」の読みの問題で返り点が付いていれば、「と」の可能性が高い。文脈上も「と」で訳してみておかしくないので、エが正解。

② まずは**比較**の句法「**不如**」（～には及ばない）に気づけたかどうか。気づけたら、あとは「妾」の単語の意味。「妾」は女性の一人称「わたし」の意味なので、「わたしに及ばない」、「わたしの方がいい」という解釈ができているイが正解。ちなみに「二三子」は、弟子たちを呼ぶ語で「あなたたち」の意味。

③ 直前の送り仮名が「～レバ」。よって、「レバ則」の「則」。ウが正解。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ウ

復習問題解答　第九講

〈解説〉

① 「**令**」は**使役**の助動詞「**しム**」。下を見て、まず動詞を探すと「犯」が動詞（選択肢からも「犯す」と動詞確定）。「令」と「犯」の間にある名詞「子」が使役の対象で「**ヲシテ**」の送り仮名をふる。よって、正解はウ。

② 「夫」は「そもそも」の意味。よって、正解はイ。さらに、「～猶且～況」から「抑揚」の句法もわかる。返り点通りの「抑揚」で解釈できているのもイのみ。

③ 「**将**」は**再読文字**で「**将に～ントす**」と読み、「今にも～しそう・だろう」の意味。よって、正解はウ。「将」には再読文字以外の読み「はタ」や「もつテ」もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えよう。

④ 設問文の「自」は返り点がついており、「**～より**」と読んで「**起点**」（～から）の意味。選択肢は返り点が省略されているので、訳して確認すると、選択肢アが「私は衛から魯に帰る」と起点で訳せるので、これが正解。イは「他人を間違いとして自分が正しいと考える」ということなので「みずから」の意味。ウも同様に「あなたは自分でこれを行え。」なのでこちらも「みずから」の意味。

〈解答〉

①　ウ　　②　イ　　③　ウ　　④　ア

復習問題解答　第十講

〔解説〕

① 「是以」は「ここヲもつテ」と読み、「だから・こういうわけで」の意味。「如是」は「かくノごとシ」と読み、「このようだ」の意味。よって、この二つの解釈がきちんとできているエが正解。

② 「於是」は「ここニおいテ」と読み、「そこで」の意味。よって、正解はウ。

③ 「以」は基本返読文字で「(〜ヲ) もつテ」と読む。よって、イとエは削る。「世見疾」の語順で「よにあらわるることはやし」と読むことは不可（この場合の用言「見」が、補語「世」の下にあることになり、間違いだと判断できる）。よって、正解はア。訳してみてもおかしくない。ちなみに「見」は他動詞「疾」（にくむ）の上にあるので、「受身」の助動詞として「る」と読んでいる。

〔解答〕

①　エ　　②　ウ　　③　ア

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。